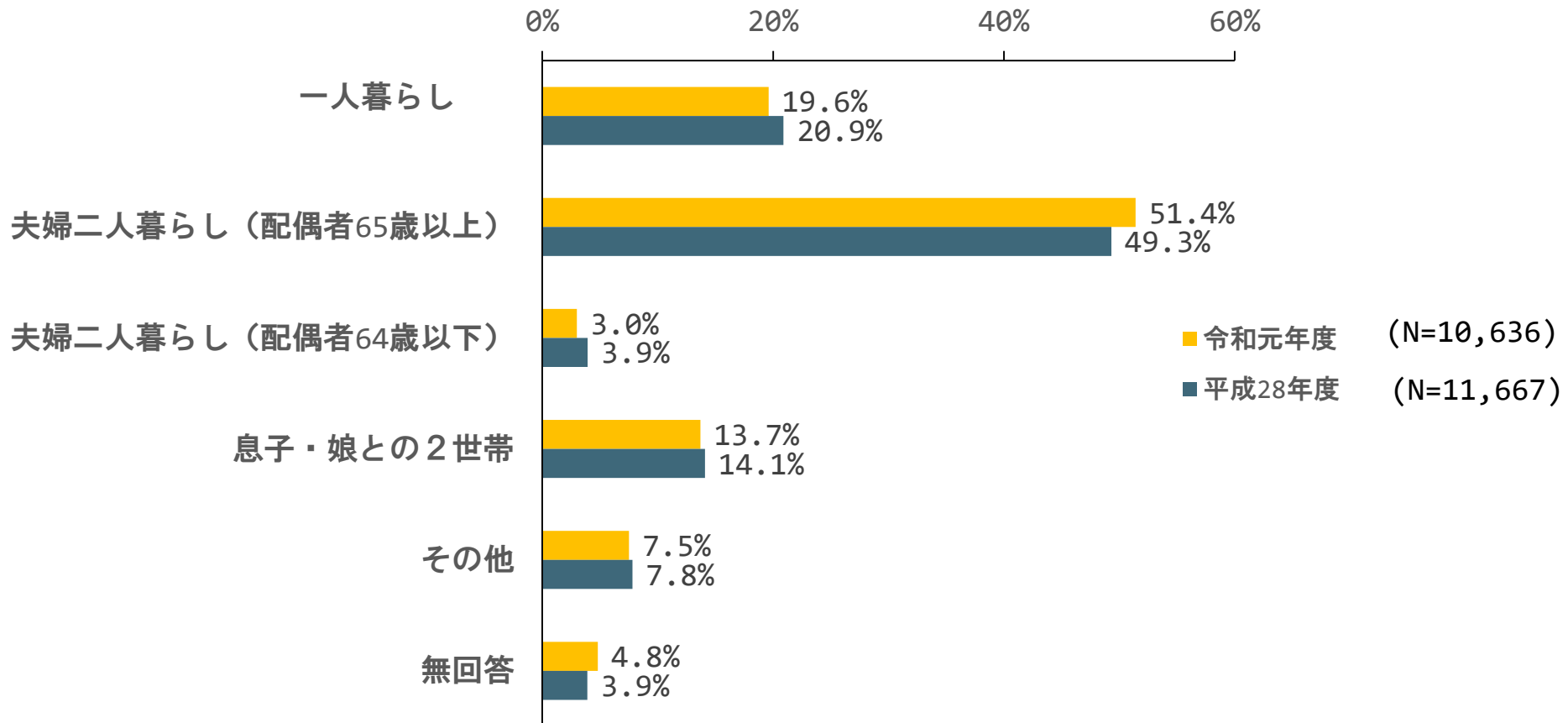


第8期神戸市介護保険事業計画策定に 向けての実態調査結果(概要)

健康とくらしの調査
(高齢者一般調査)

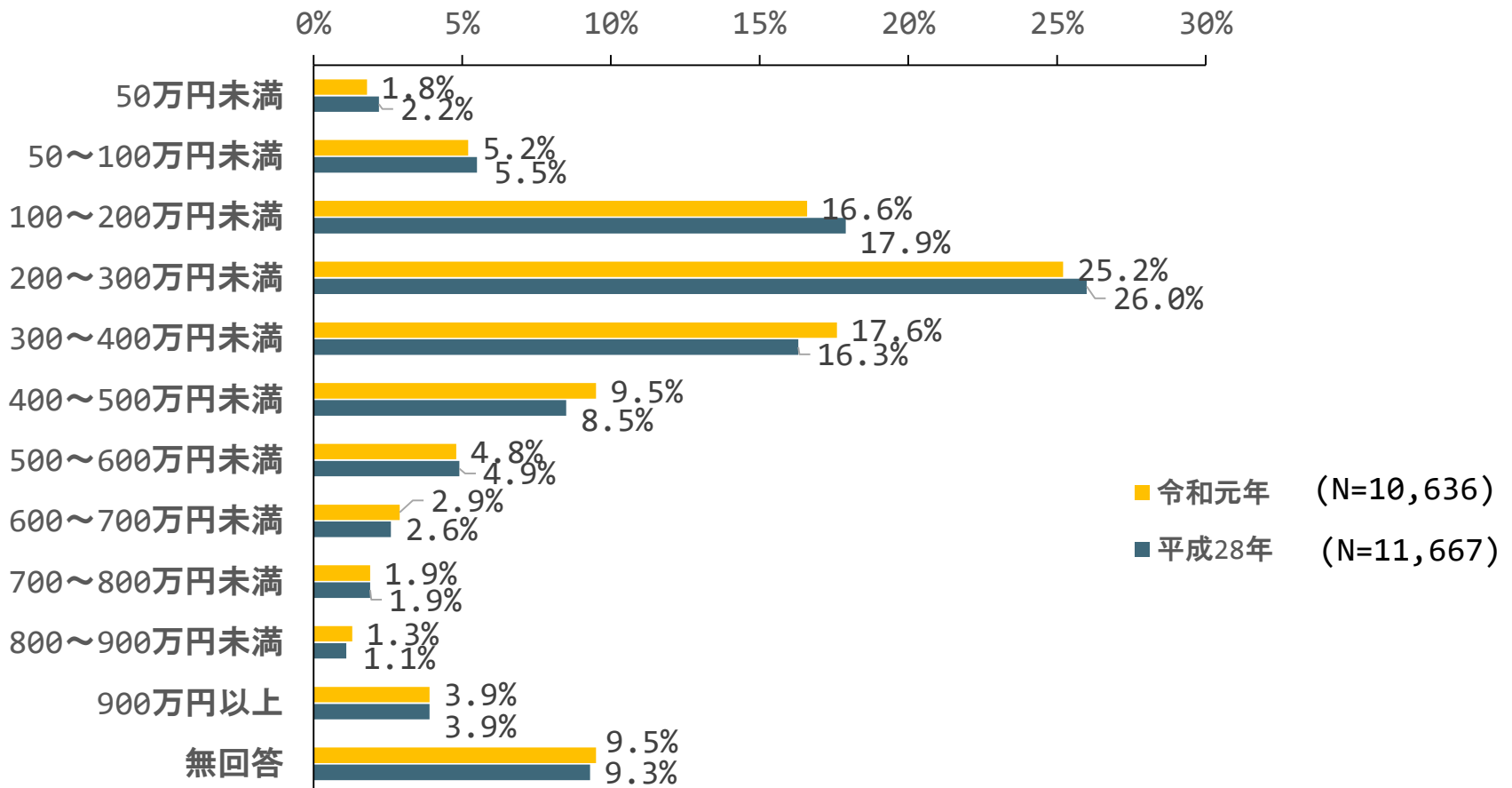
家族構成

単身(一人暮らし)世帯が19.6%となっており、前回調査時より1.3ポイント減となっている。一方、ともに65歳以上の夫婦のみ二人暮らし世帯が51.4%となっており、2.1ポイント増となっている。



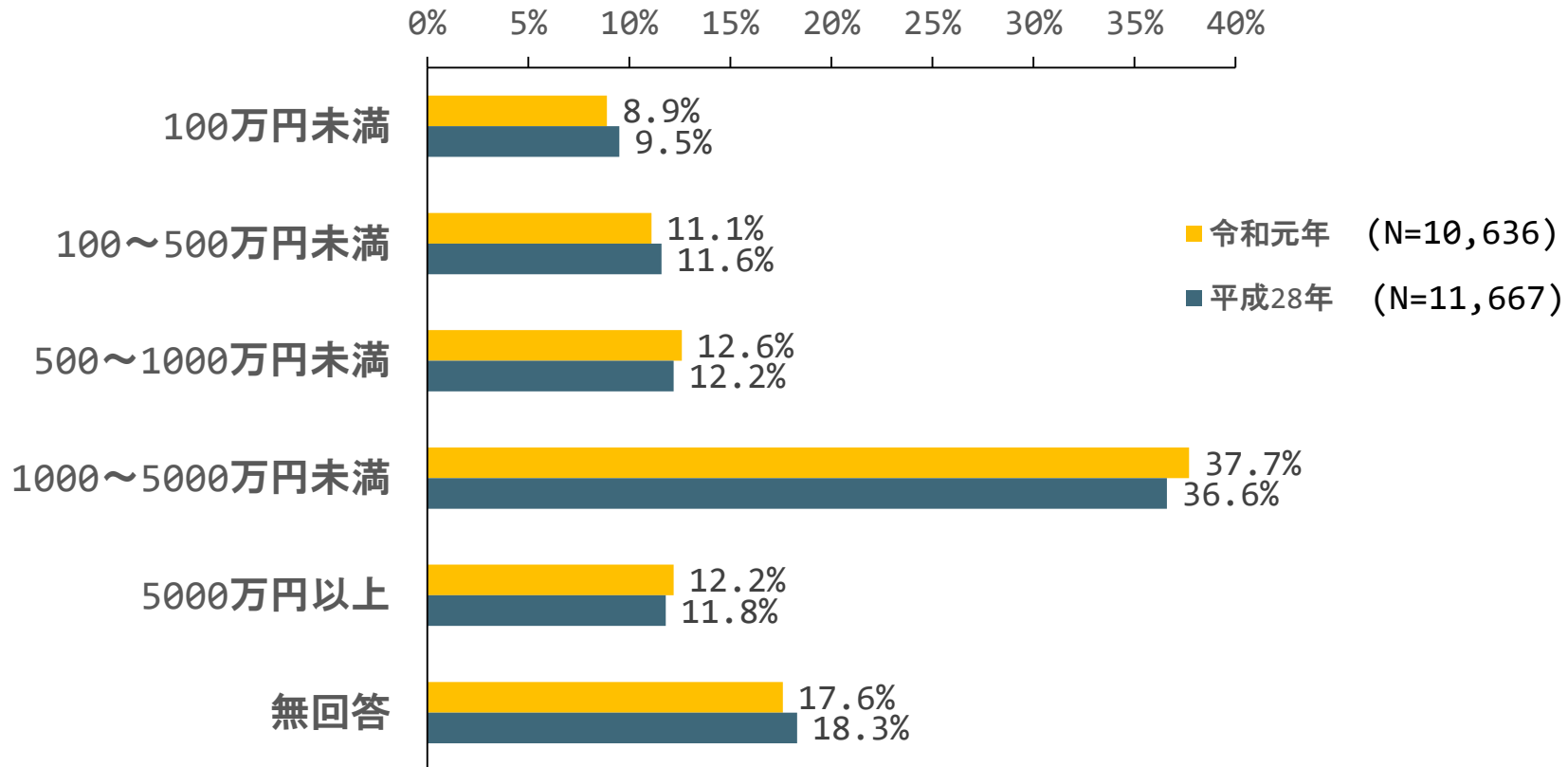
世帯の収入

世帯の収入は、「200～300万円未満」の世帯が25.2%と最も多く、次いで、「300～400万円未満」17.6%、「100～200万円未満」16.6%が多くなっている。前回調査との比較では、「300～400万円未満」が1.3ポイント、「400～500万円未満」が1ポイント増加している。



世帯の資産

前回調査との比較では、1000万円以上の世帯が増加している。

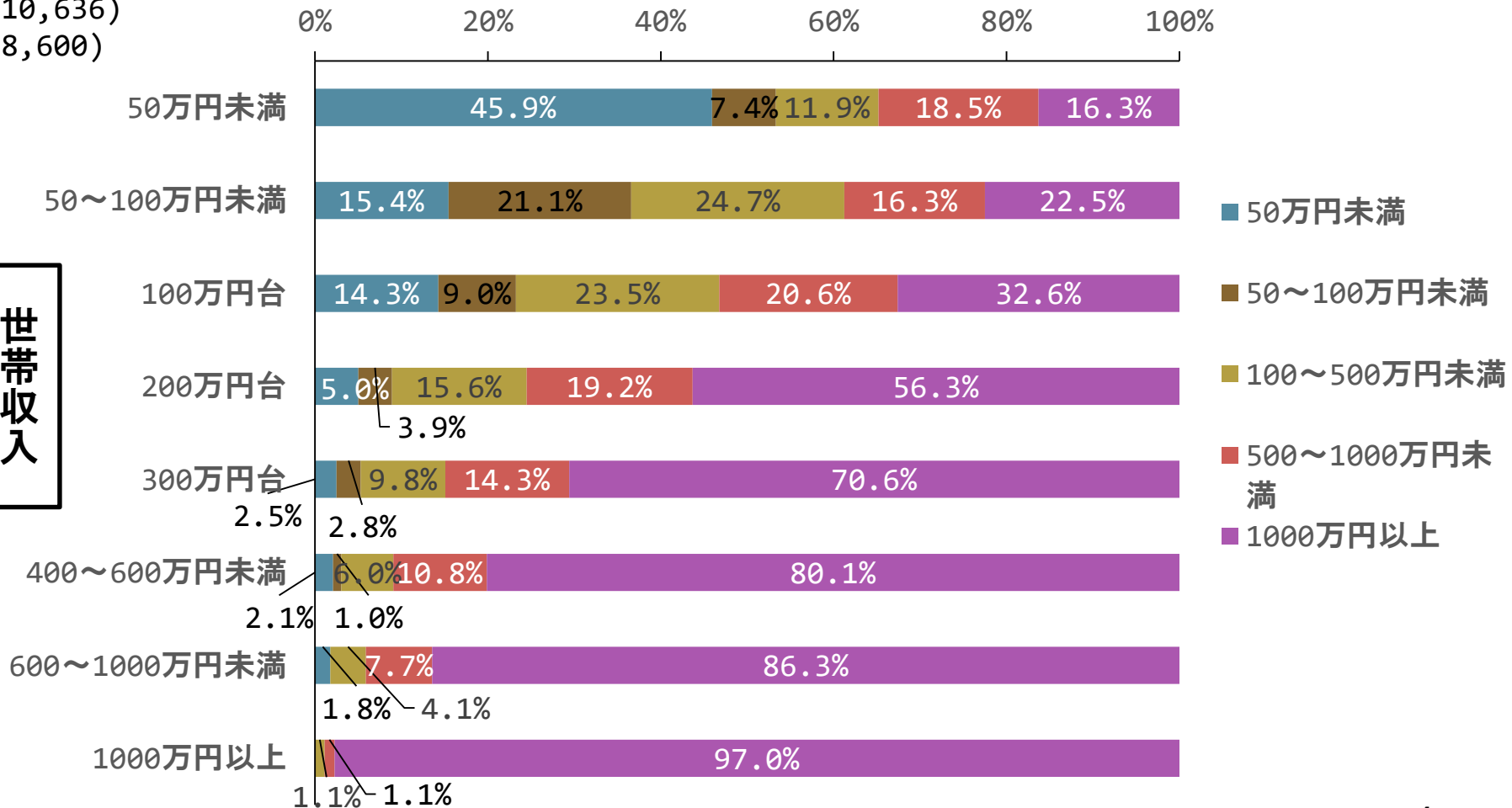


収入／貯蓄額

貯蓄額1,000万円以上の世帯の割合は、世帯収入200万円以下では16%～33%、200万円以上では半数以上となっている。

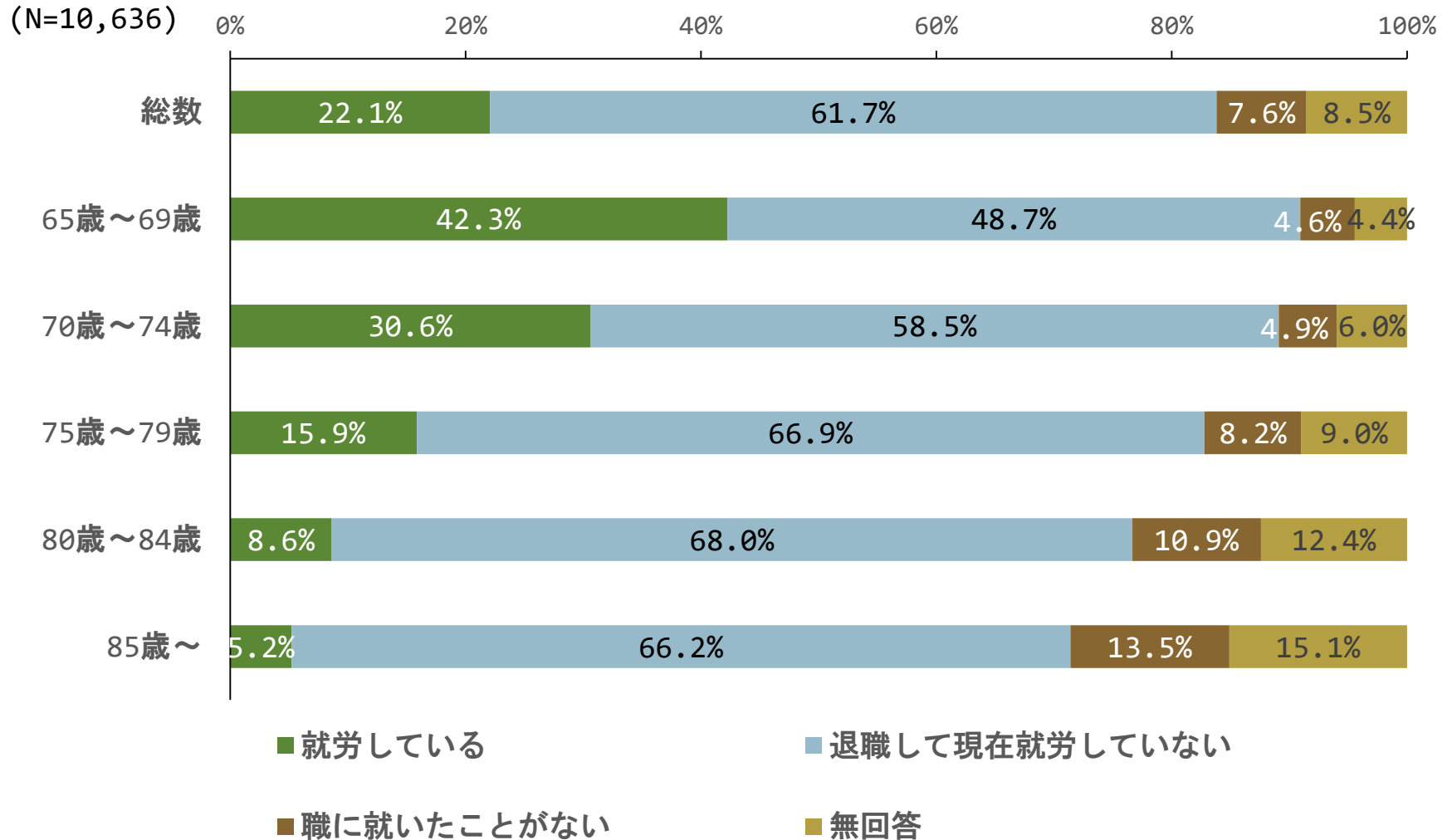
(N=10,636)
(n=8,600)

世帯収入



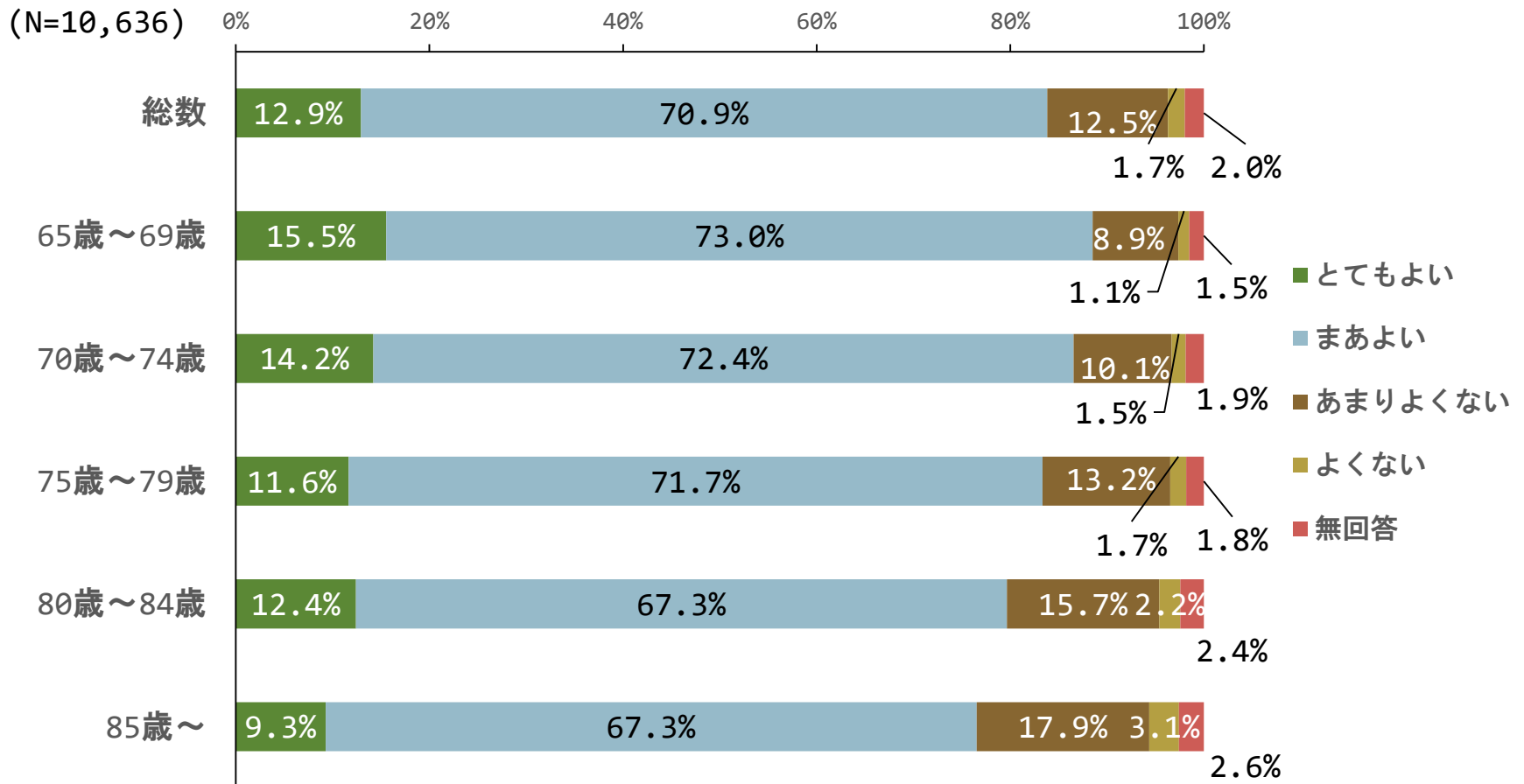
就労状況

65～69歳では42%、70～74歳では31%の方が就労している。



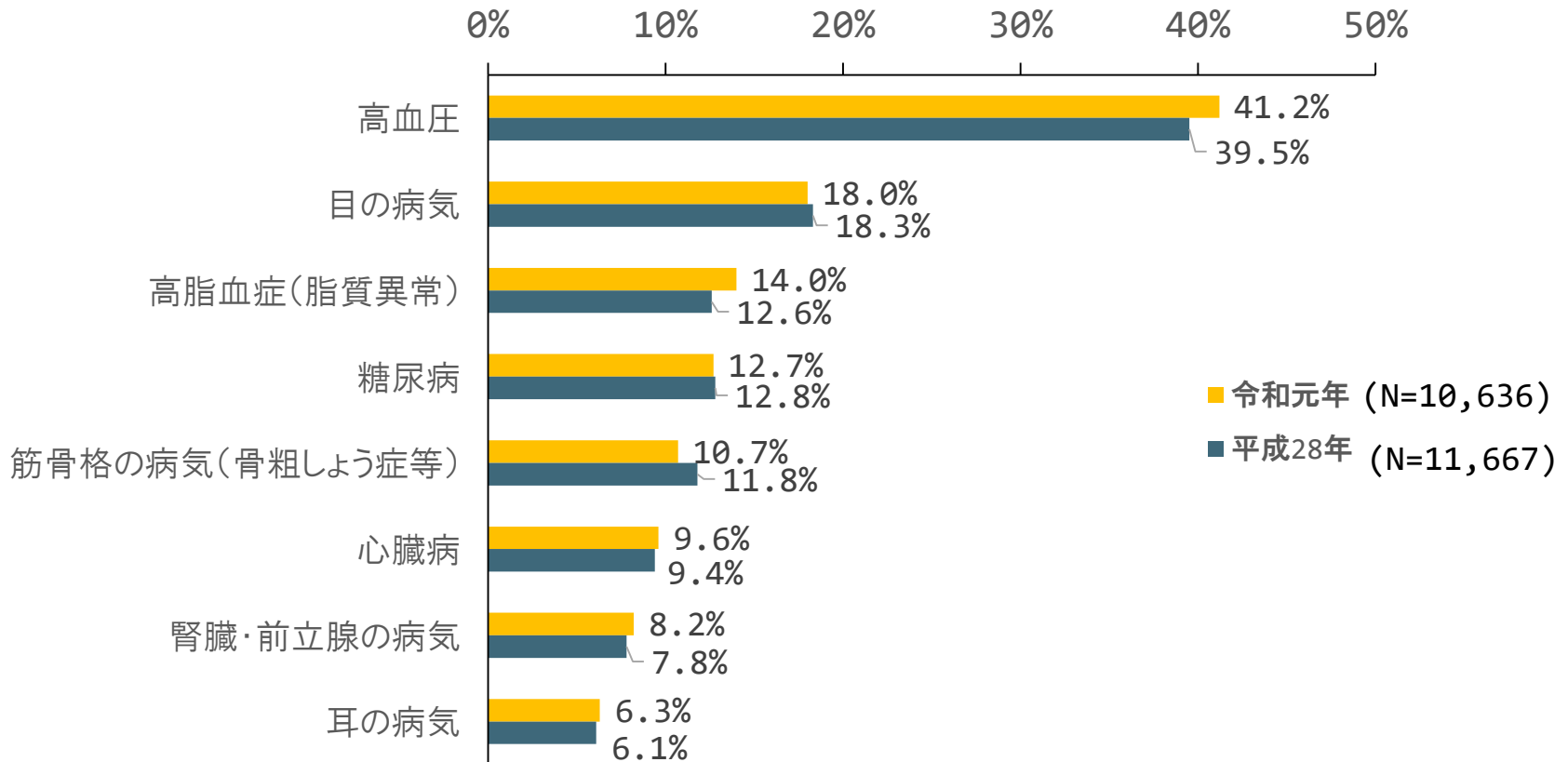
健康状況

健康状態が「とてもよい」「まあよい」と回答した方は合わせて約8割となっている。
年齢別にみると、「85歳以上」では、「とてもよい」「まあよい」と回答した方は合わせて約76%、「あまりよくない」「よくない」と回答した方は合わせて21%となっている。



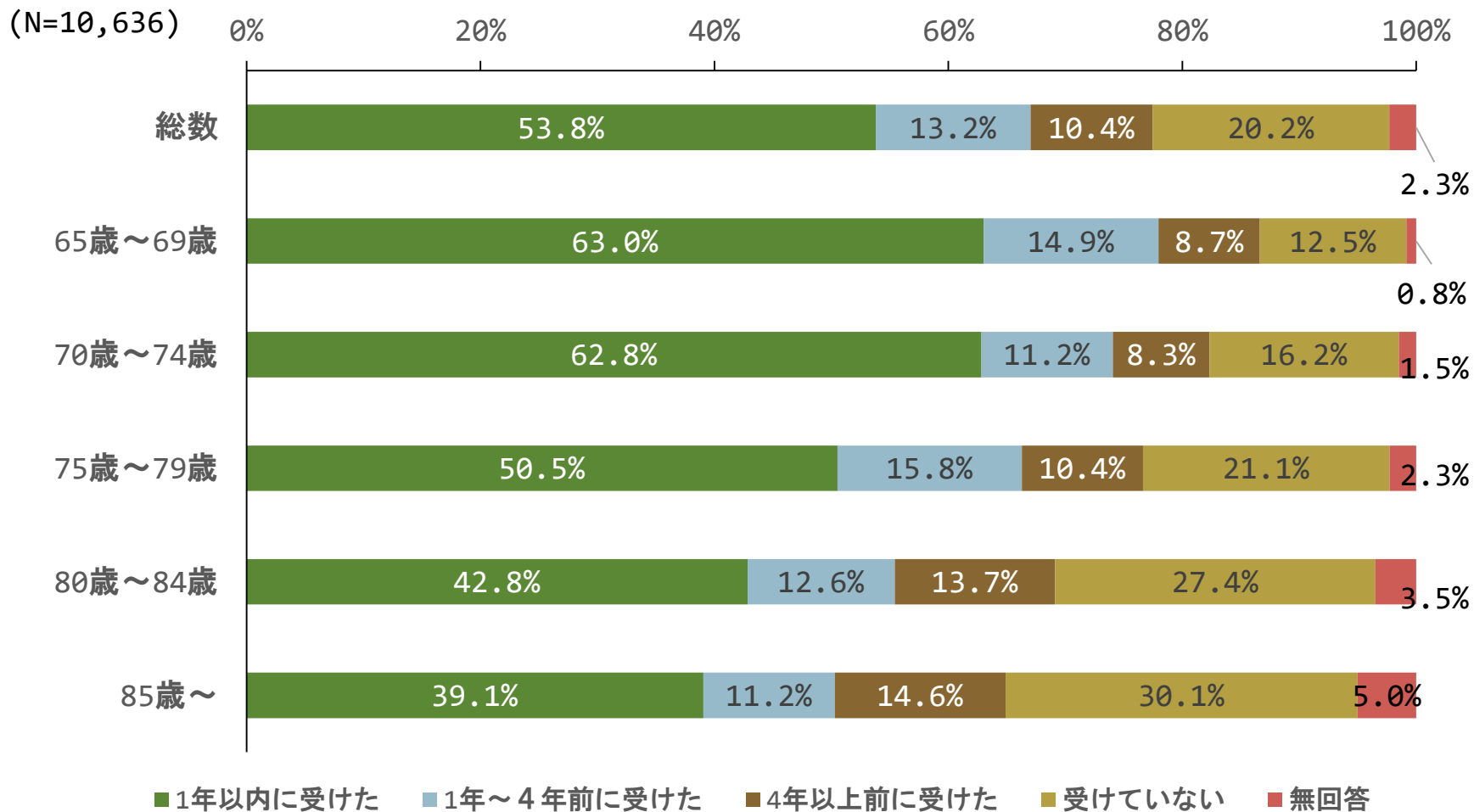
罹患の状況

「高血圧」が41.2%と最も多く、次いで「目の病気」18.0%、「高脂血症」14.0%、「糖尿病」12.7%、「筋骨格系の病気」10.7%の順に多くなっている



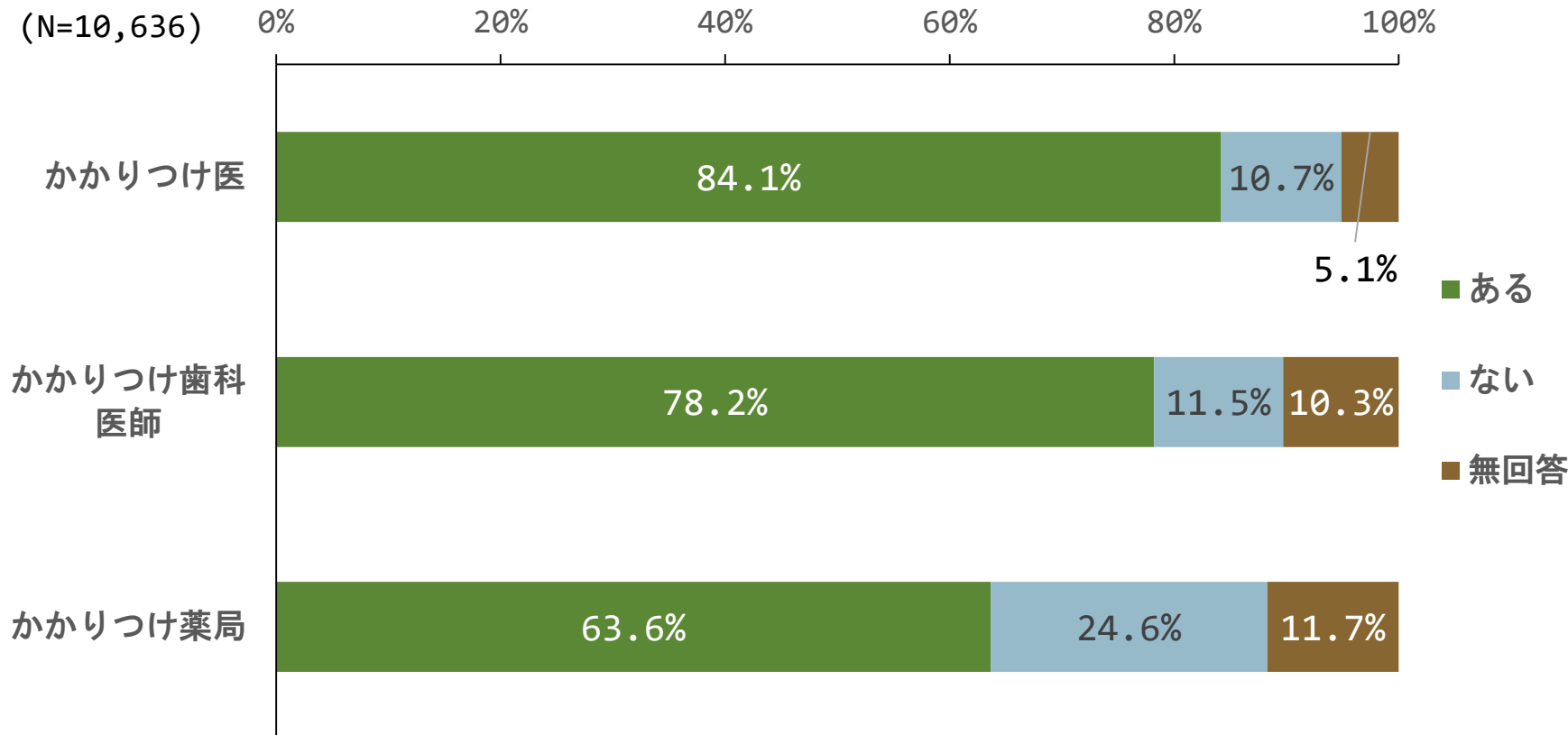
健診・人間ドッグの受診状況

65～74歳では約6割の方が1年以内に受診しているが、80歳以上では約4割となっている。また、80歳以上では約3割の方が「受けていない」と回答している。



かかりつけ医師・歯科医師・薬局

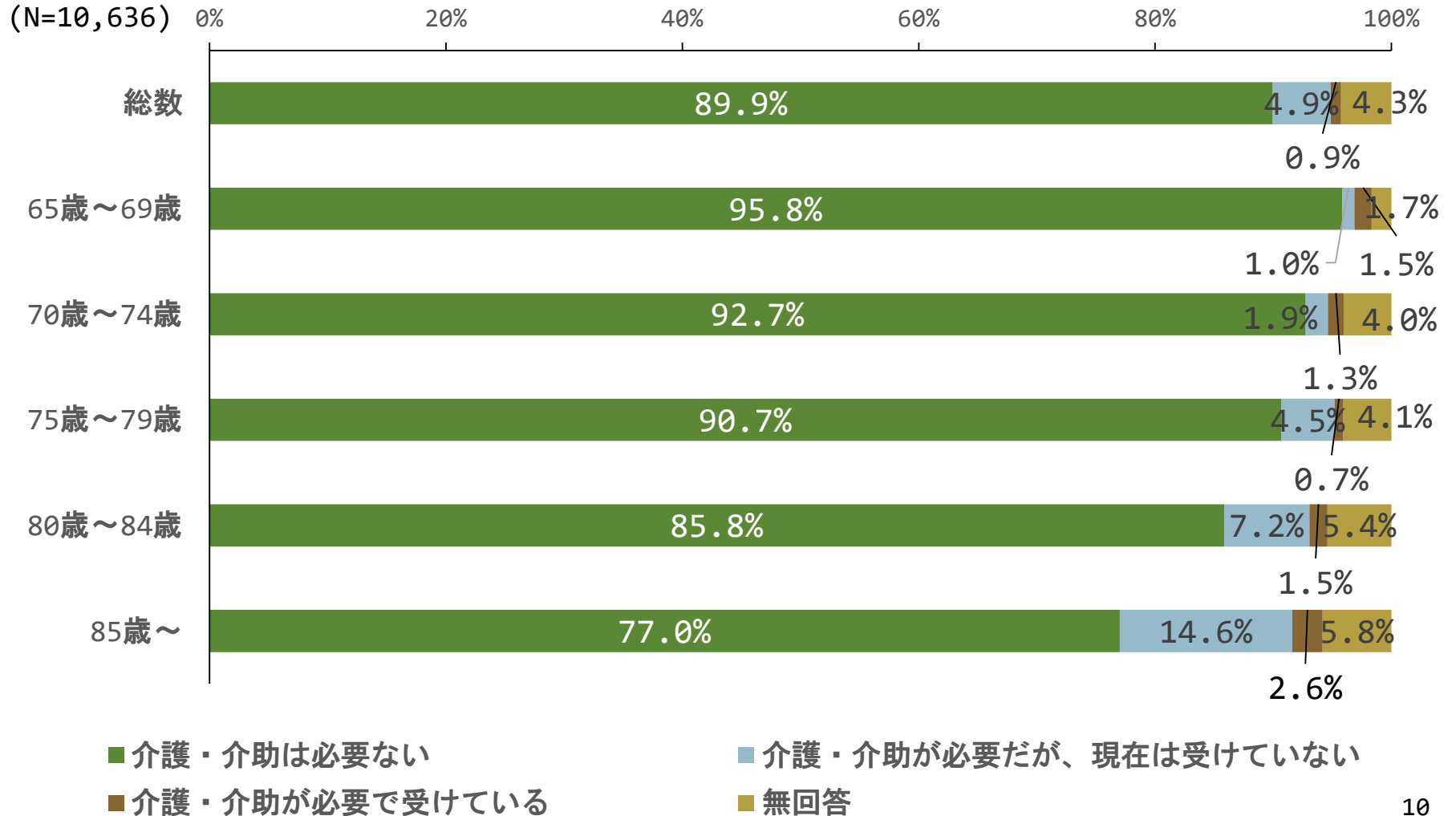
かかりつけ医師84.1%、かかりつけ歯科医師は78.2%、かかりつけ薬局は63.6%の方が「ある」と回答している。



※ここで言う「かかりつけ薬局」とは、診療報酬上にて定義されている「かかりつけ薬剤師」がいる薬局だけに限らず、日常的に利用している薬局も含まれます。

身体状況

約9割の方が「介護・介助は必要ない」と回答している。年齢別にみると、85歳以上の方の約2割が、介護・介助が必要と回答している。

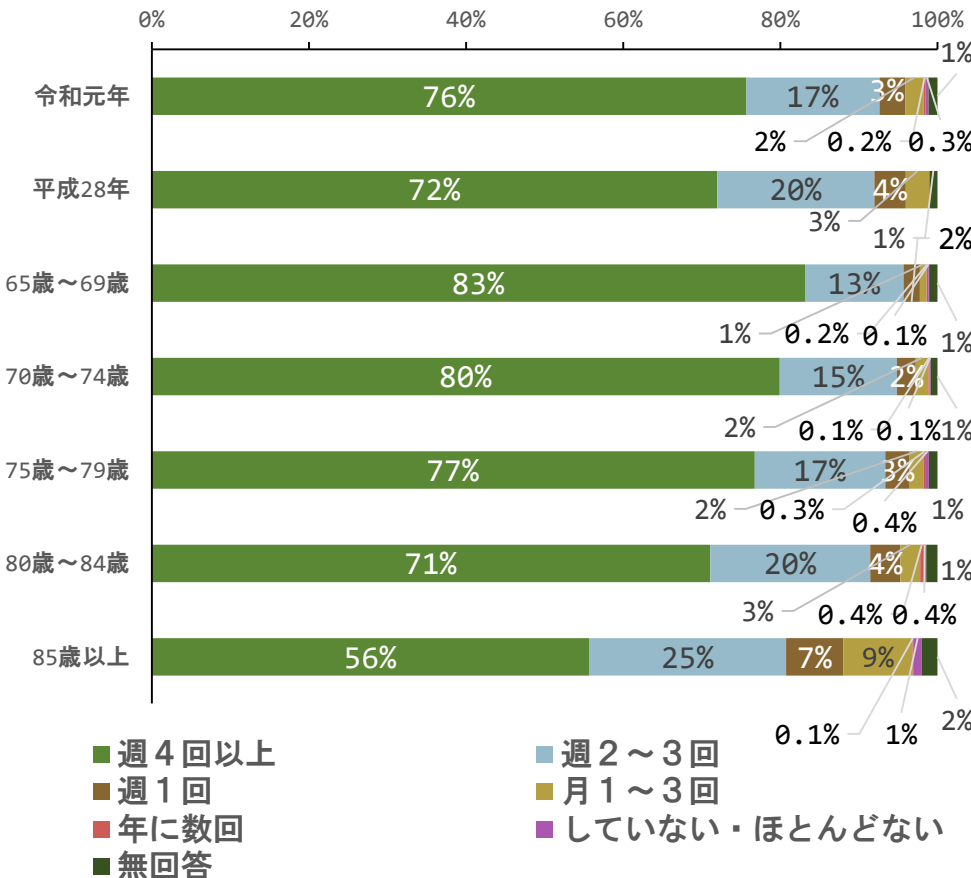


外出の頻度

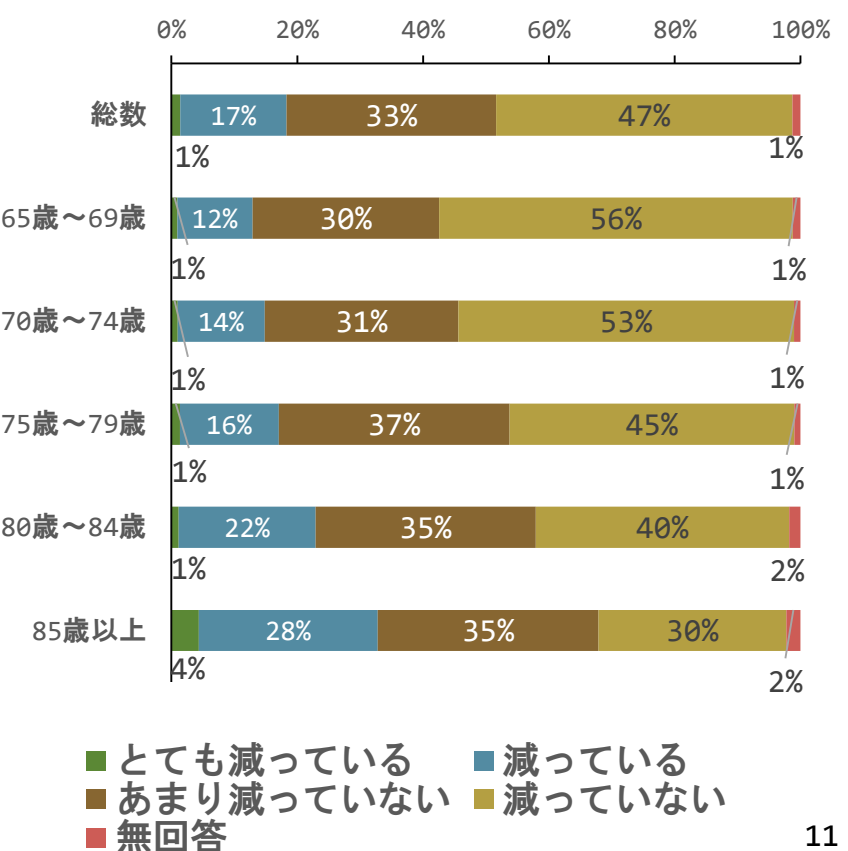
「週4回以上」外出する方は、84歳までは7割を超えているが、85歳以上では6割以下となっている。

昨年と比べて外出の頻度が減っているかどうかたずねたところ、「とても減っている」「減っている」が18%、「あまり減っていない」「減っていない」が80%となっている。

■ あなたが外出する頻度はどのくらいですか (N=10,636)



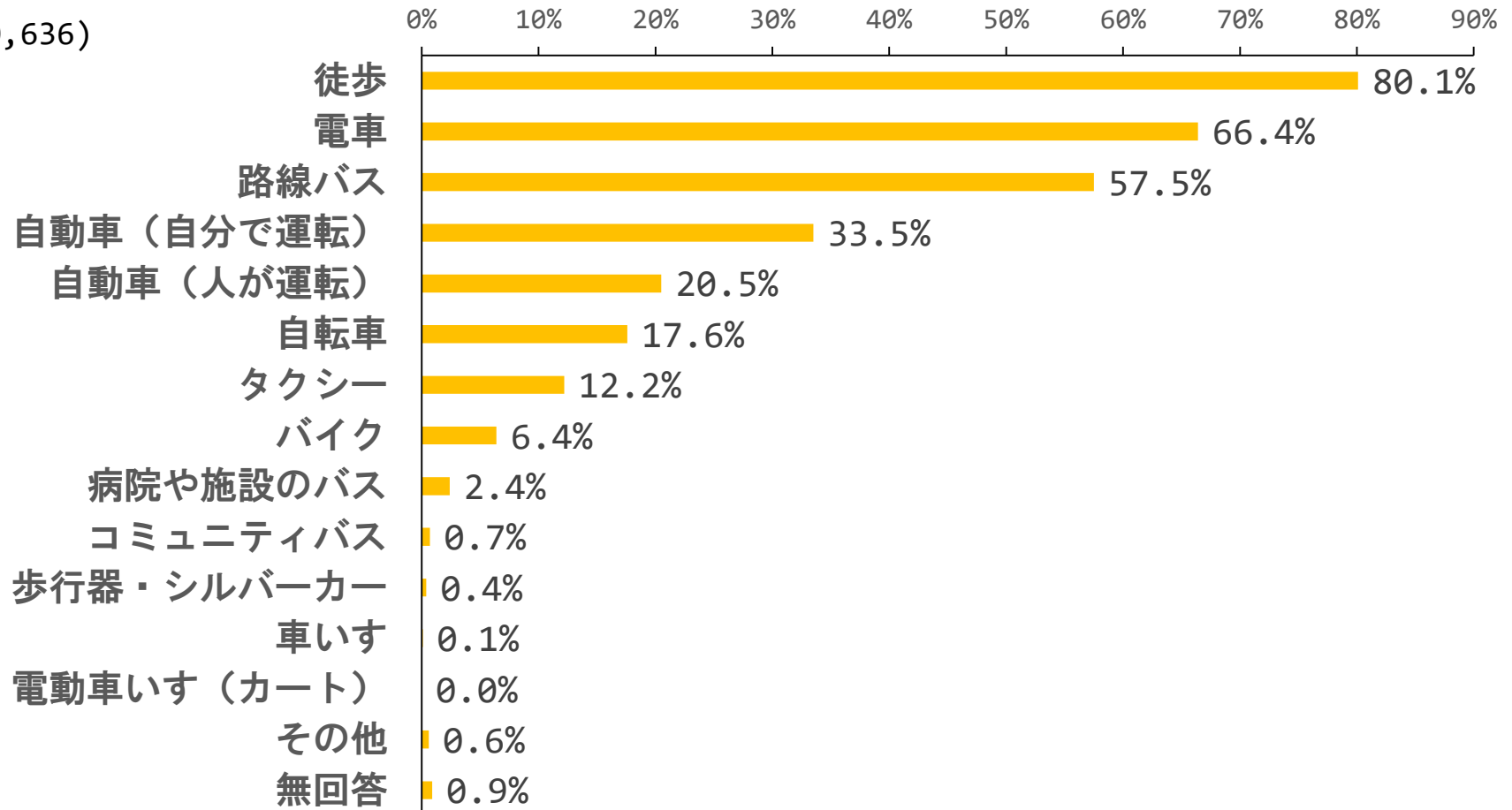
■ 昨年と比べて外出の回数は減っていますか。(N=10,636)



外出時の交通手段

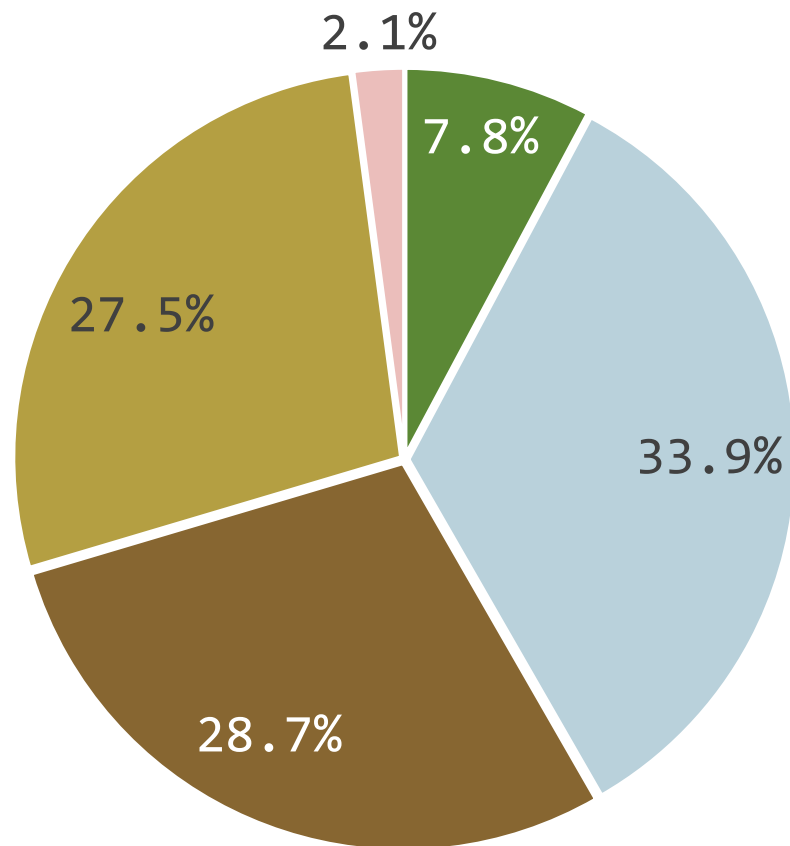
外出時の交通手段は、「徒歩」80.1%、「電車」66.4%、「路線バス」57.5%の順で多くなっており、公共交通機関の利用が多い。次いで「自動車（自分で運転）」33.5%となっている。

(N=10,636)



転倒に対する不安

「とても不安である」「やや不安である」を合わせた約4割の方が転倒に対して不安を持っている。



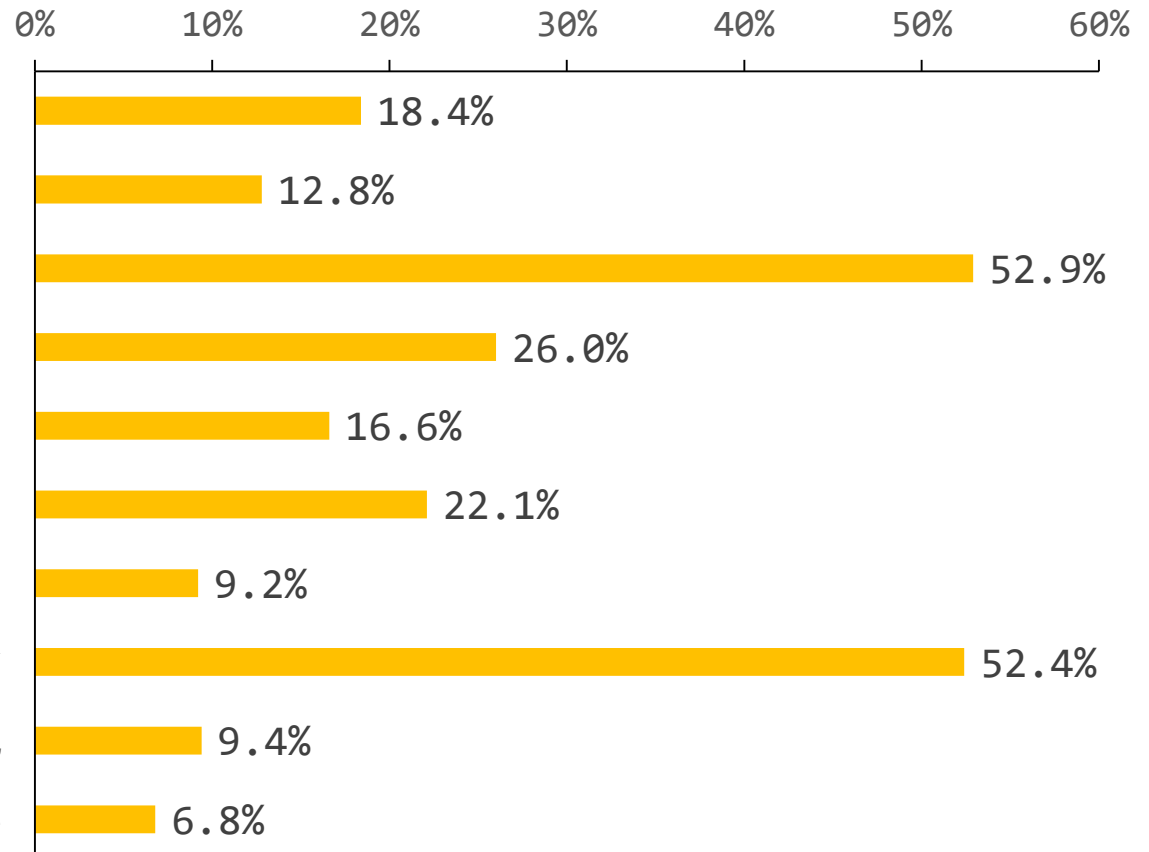
(N=10,636)

- とても不安である
- やや不安である
- あまり不安でない
- 不安でない
- 無回答

外出の主な目的

日常生活(買い物、通院など)を除く外出目的をたずねたところ、「体を動かす趣味のため」52.9%、「家族や友人との買い物や会食」52.4%、「それ(体を動かす)以外の趣味のため」26%、「映画鑑賞や音楽鑑賞などの芸術鑑賞」22.1%の順に多くなっている。

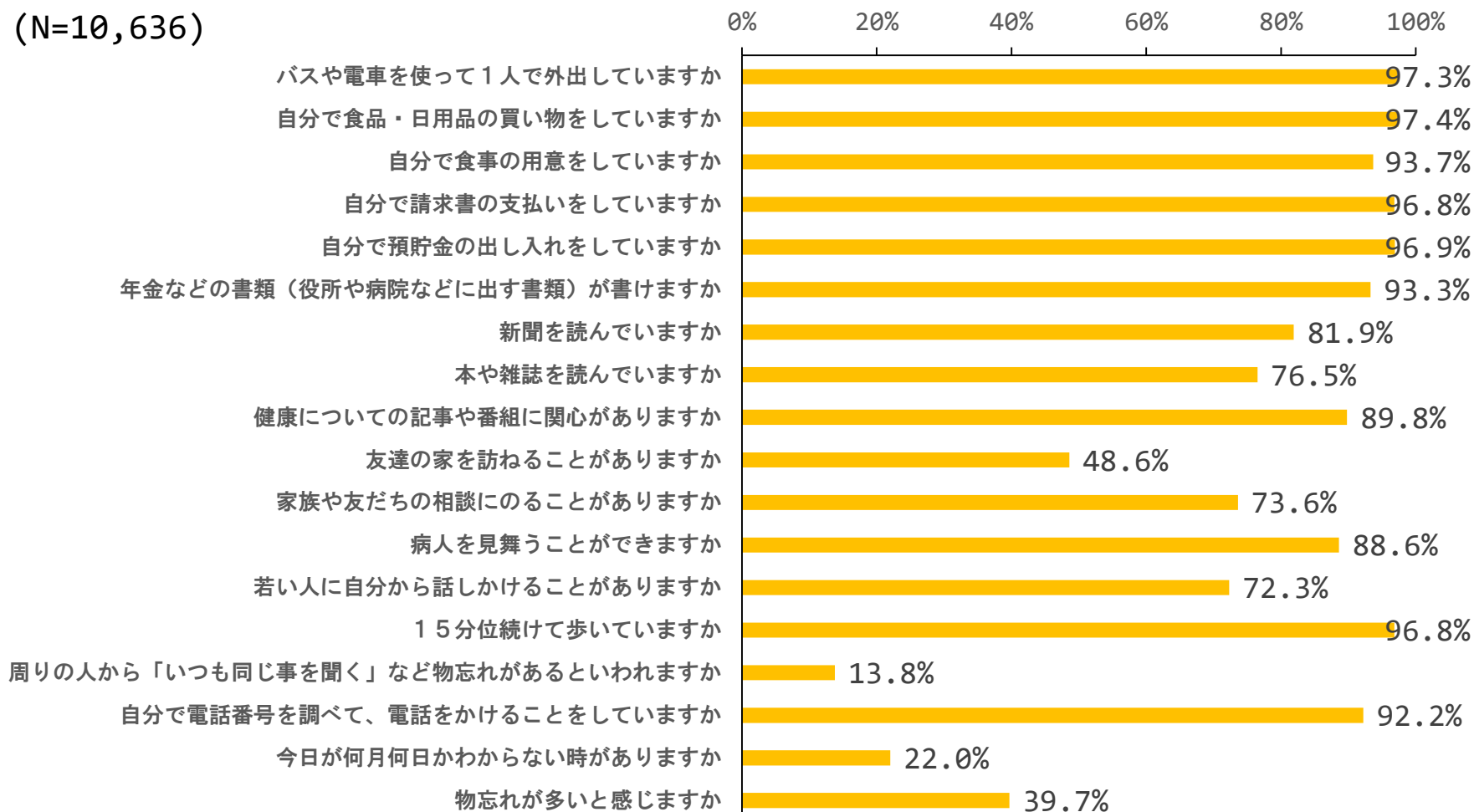
(N=10,636)



日常生活について

「友達の家を訪ねることがありますか。」について、「はい」と回答した方は48.6%となっている。

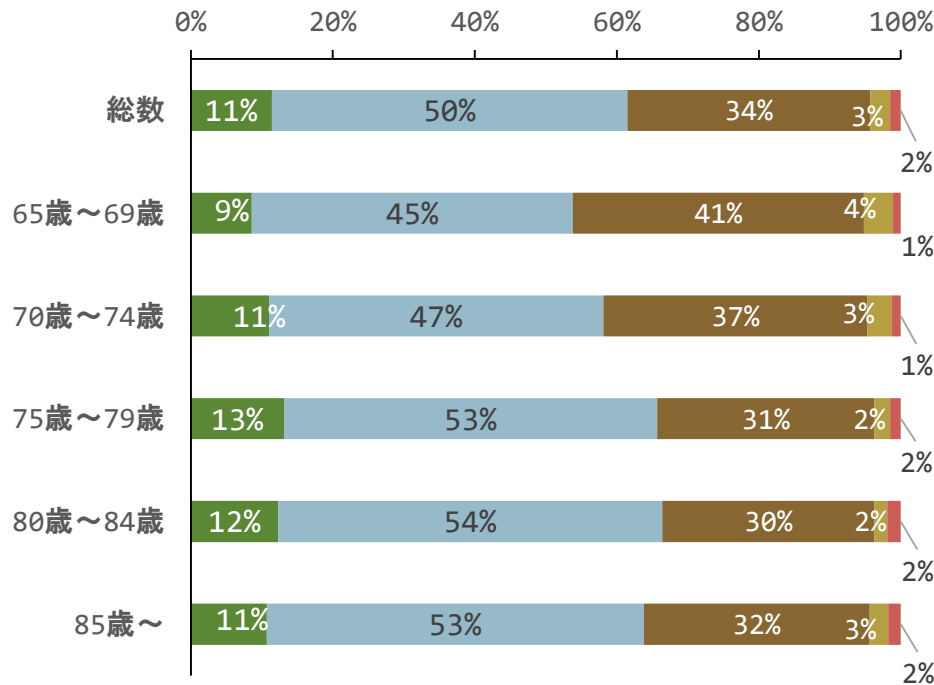
(N=10,636)



近所づきあい

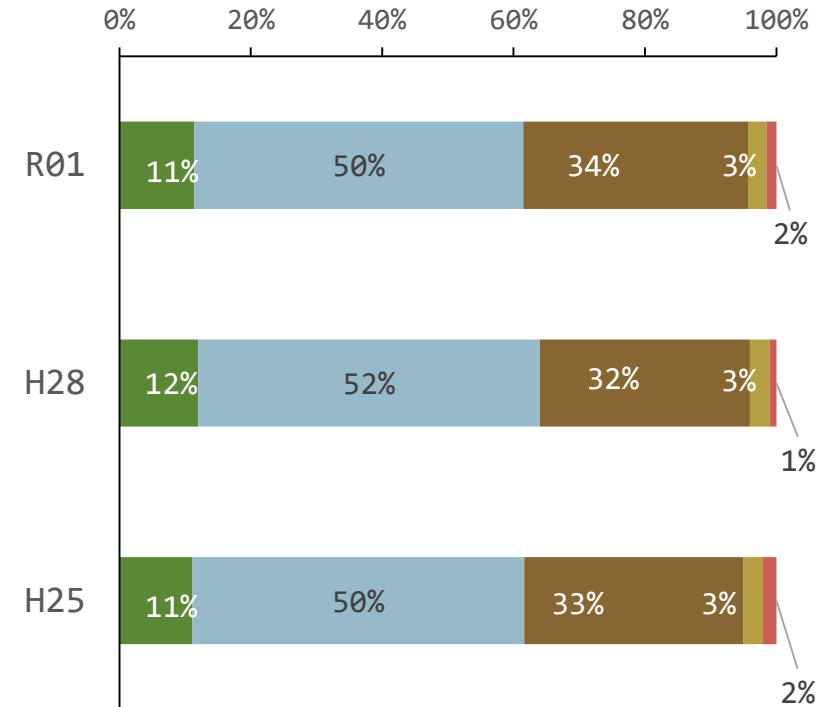
65～69歳では「挨拶程度の最小限のつきあいのみ」と回答した方の割合(41%)が、他の年代よりも高くなっている。前回調査との比較では、概ね同じ結果となっている。

(N=10,636)



- 生活面で協力しあっている人もいる
- 立ち話程度のつきあいはしている
- 挨拶程度の最小限のつきあいのみ
- つきあいは全くしていない
- 無回答

(N=10,636)

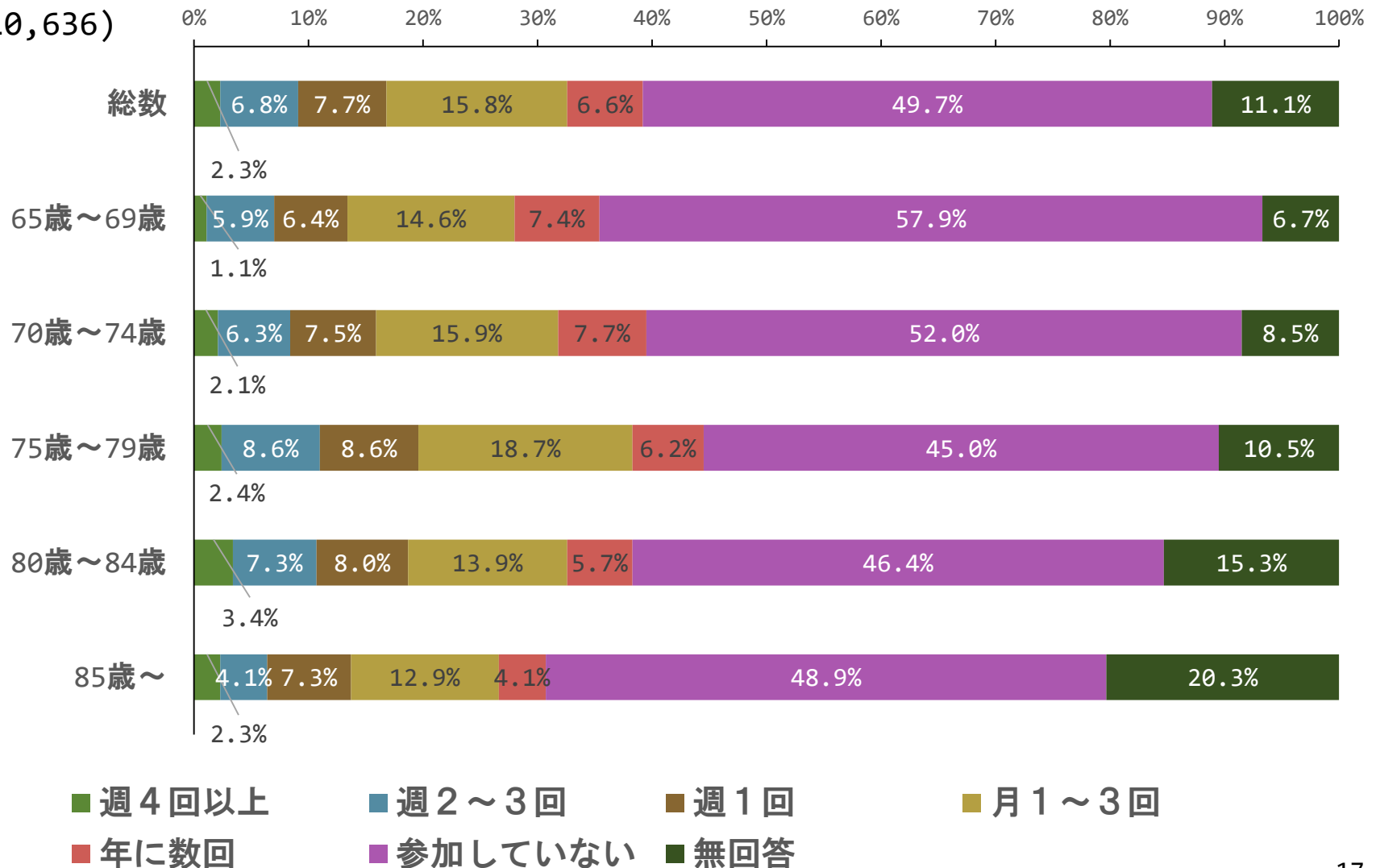


- 生活面で協力しあっている人もいる
- 立ち話程度のつきあいはしている
- 挨拶程度の最小限のつきあいのみ
- つきあいは全くしていない
- 無回答

趣味関係のグループの参加

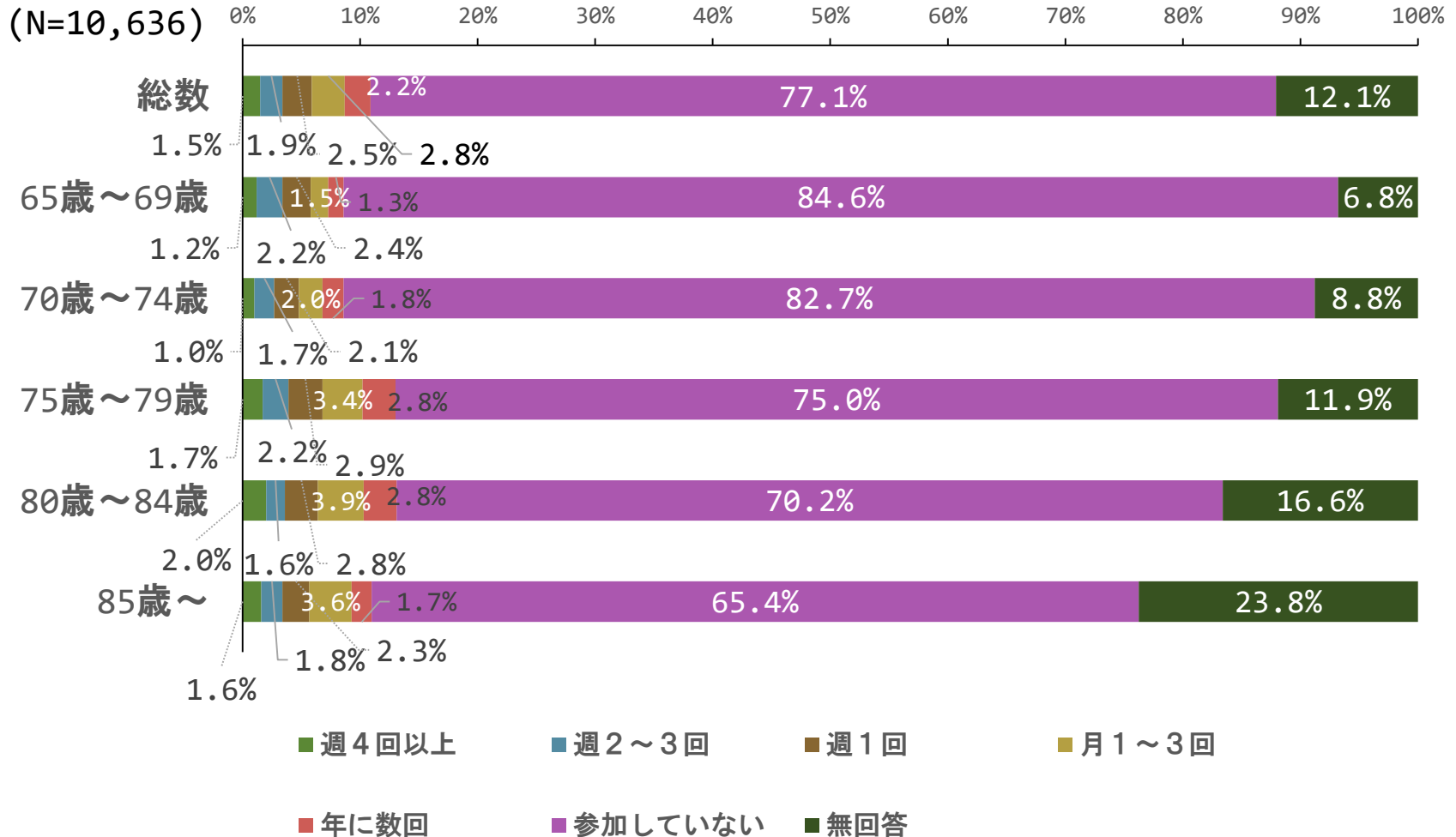
約4割の方が趣味関係のグループに参加している。

(N=10,636)



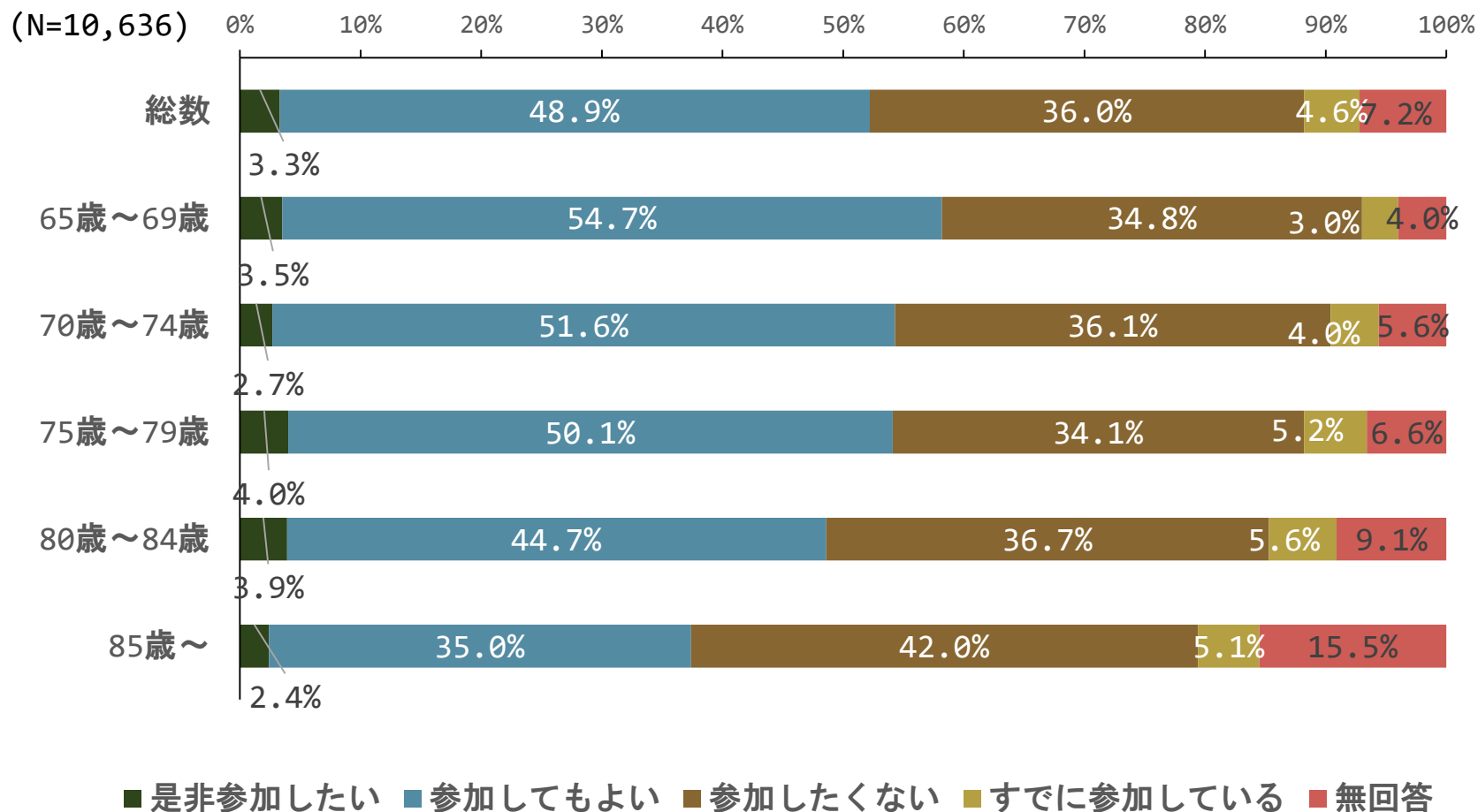
健康体操やサロンなどの介護予防のための 通いの場への参加

介護予防のための通いの場へ約1割が参加している。一方で「参加していない」が約8割となっている。



地域住民によるグループ活動への参加希望

地域住民の有志による健康づくりや趣味等の活動等のグループ活動へ参加したいと思うかたずねたところ、「是非参加したい」「参加してもよい」を合わせて52.2%となっている。



ボランティア参加頻度・条件

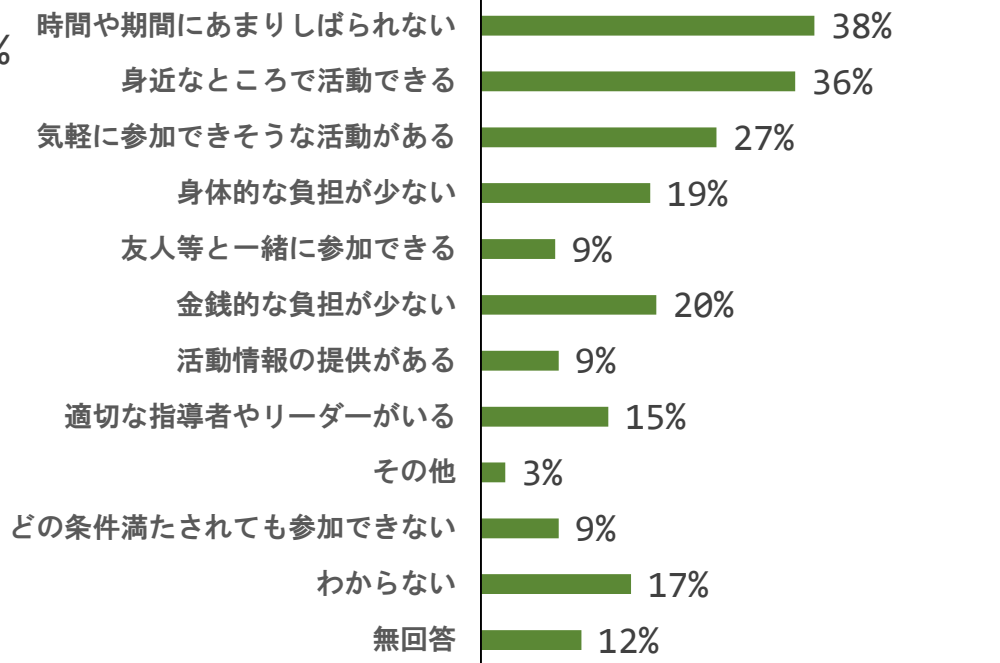
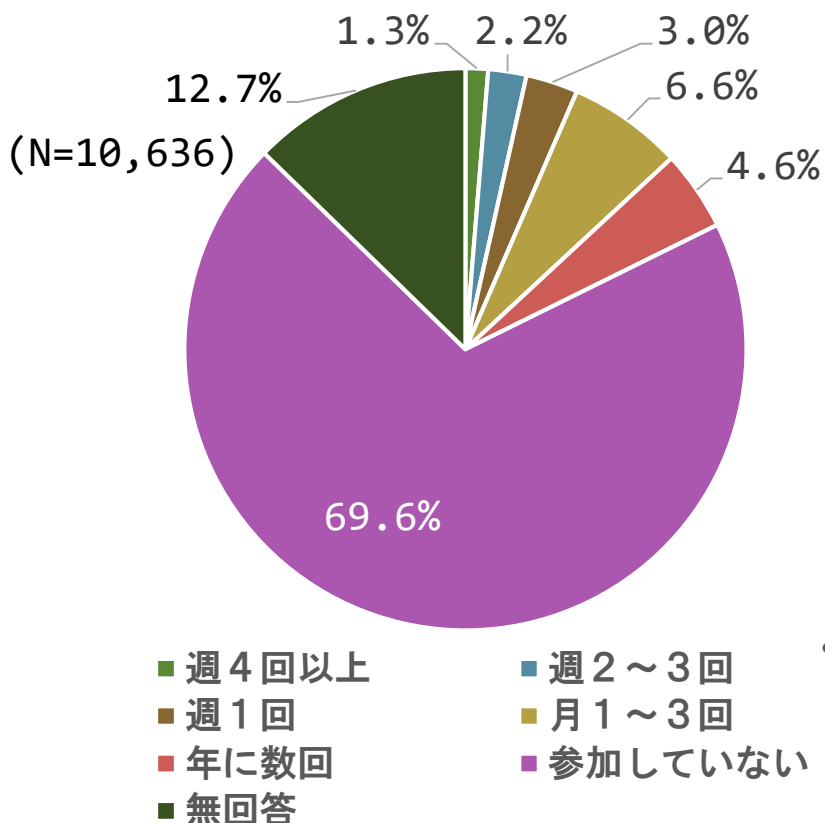
約2割の方が、ボランティアグループに参加しているが、約7割の方は「参加していない」と回答している。ボランティアに参加したり今以上に参加するための条件をたずねたところ、「時間や期間にあまりしぼられないこと」が38%と最も多く、次いで「身近なところで活動できる」36%、「気軽に参加できそうな活動がある」27%が多くなっている。

ボランティアグループへの参加頻度

ボランティア活動への参加条件

(N=10,636)

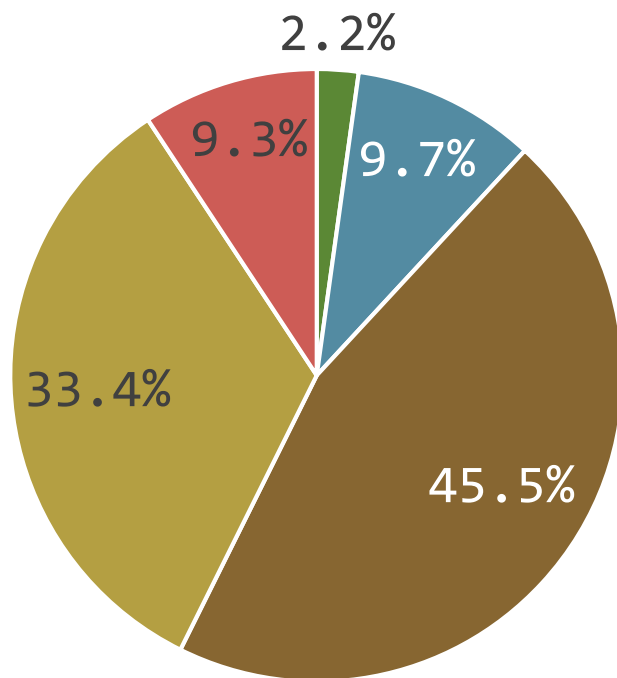
0% 20% 40% 60%



ボランティアポイント制度

ボランティアポイント制度があれば、ボランティアに参加するか(今以上に参加するか)たずねたところ、参加すると回答した方が11.9%となっており、制度があっても参加しないと回答した方が33.4%となっている。

(N=10,636)

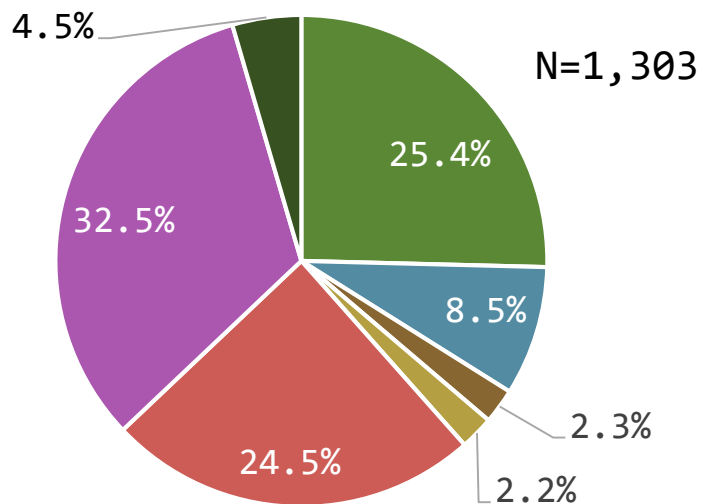


- ぜひ参加したい・今まで以上に参加したい
- 参加したい・今までと変わらず参加したい
- 参加するかわからない
- 参加しない
- 無回答

最期を迎える場所

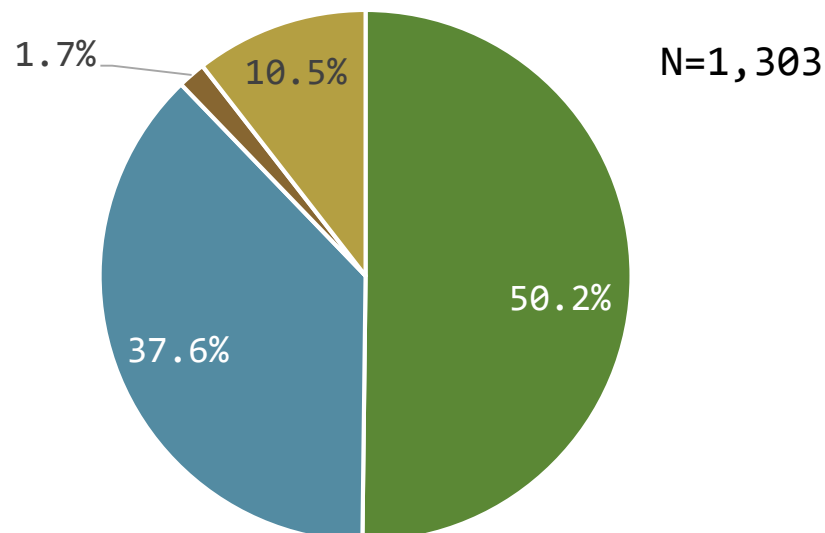
自分が最期を迎える場所の希望をたずねたところ、「病院」が最も多く25.4%となっており、「自宅(子供などの家族宅を含む)」24.5%になっている。一方、「わからない」が32.5%となっている。また、最後を迎える場所について誰かに相談したことがある人が39.3%、まったくない人が50.2%となっている。

最期を迎える場所



- 病院
- ホスピス・緩和ケア病棟
- 老人ホームや認知症グループホームなどの福祉施設
- 高齢者向けのケア付き集合住宅
- 自宅(子供などの家族宅も含む)
- わからない
- 無回答

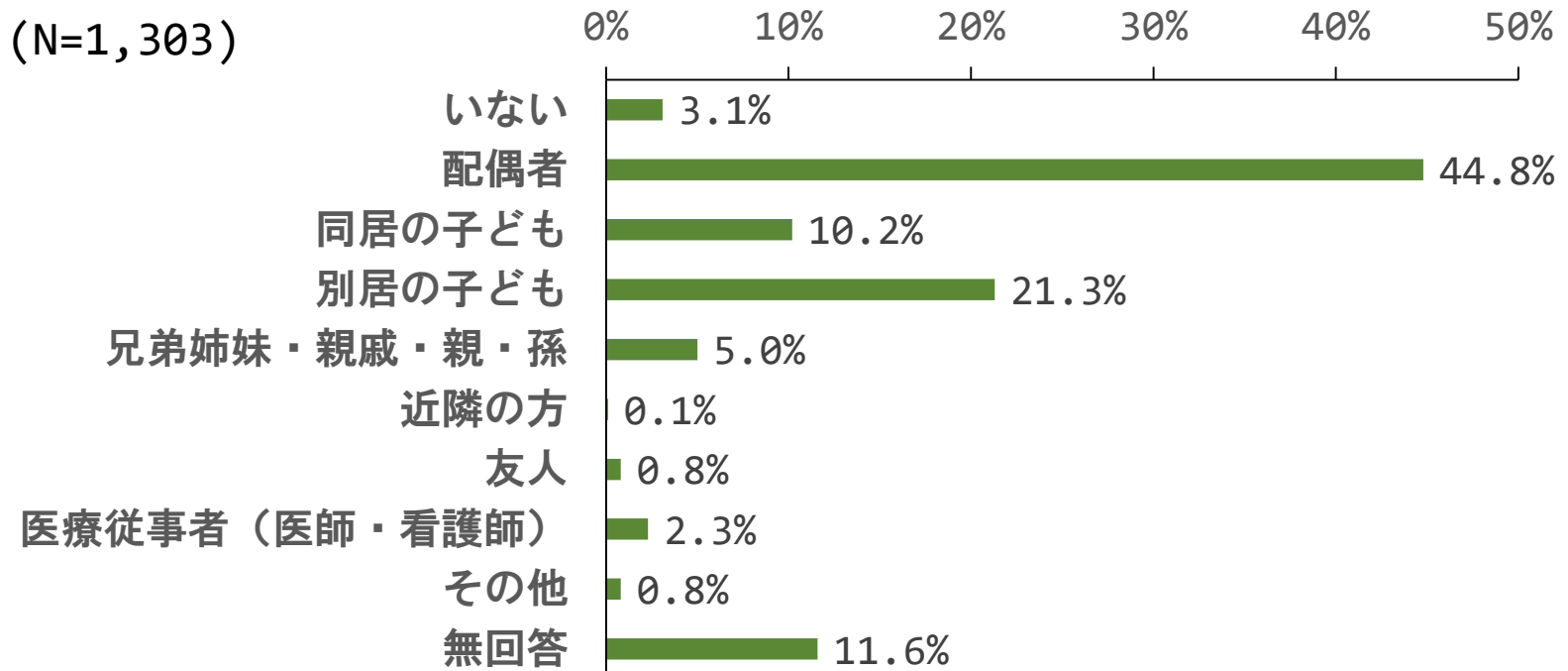
相談したことがあるか



- まったくない
- 話し合ったことがある
- 話し合い、その結果を紙などに記載した
- 無回答

最期を迎える場所(2)

自分が意思決定できなくなったときに備えて、一番自分が信頼して自分の医療・療養に関する方針を決めて欲しいと思う人は誰かたずねたところ、「配偶者」が44.8%、「別居の子ども」が21.3%となっている。

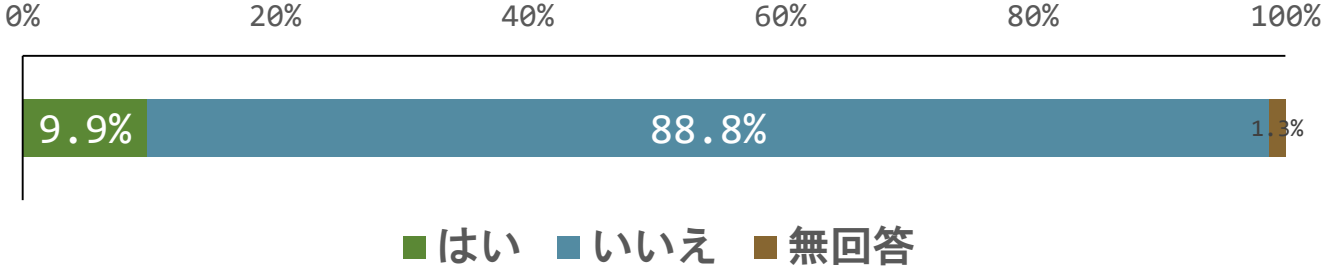


新規

認知症の現状と相談窓口

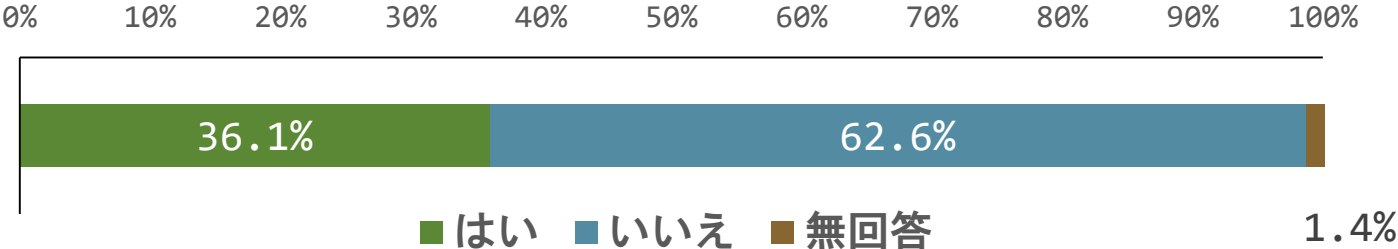
ご自身、家族に認知症の症状がある人がいるかたずねたところ、「いいえ」が88.8%となっている。

(N=10,636)



認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「いいえ」が62.6%となっている。

(N=10,636)

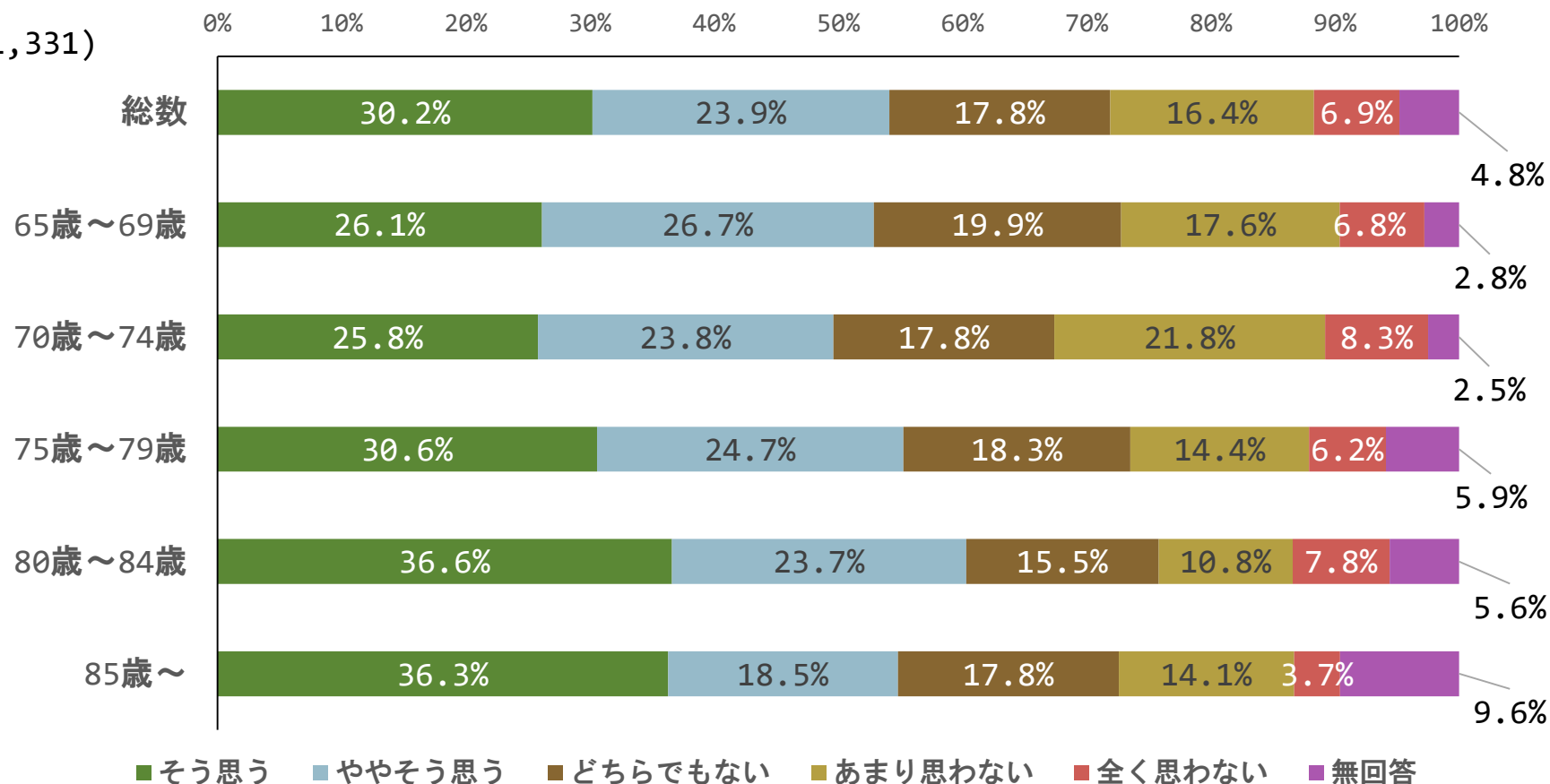


認知症と在宅介護の希望

自分が認知症になったら、周りの人に助けをもらいながら自宅での生活を続けたいと思うかどうかたずねたところ、「そう思う」「ややそう思う」が合わせて54.1%となっている。一方、「あまり思わない」「まったく思わない」は合わせて23.3%となっている。

- 自分が認知症になったら、周りの人に助けをもらいながら自宅での生活を続けたいと思いますか。

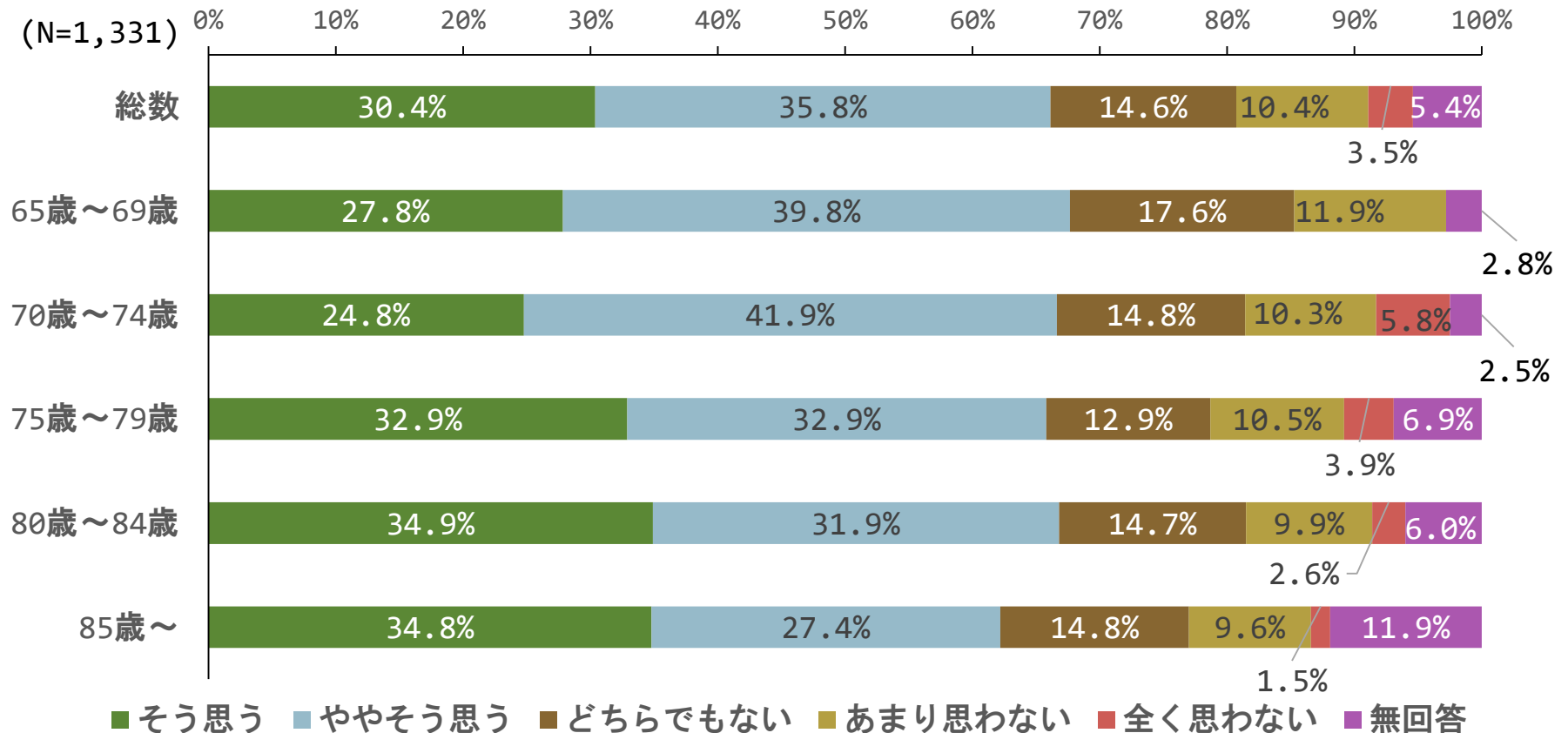
(N=1,331)



認知症と周囲の協力

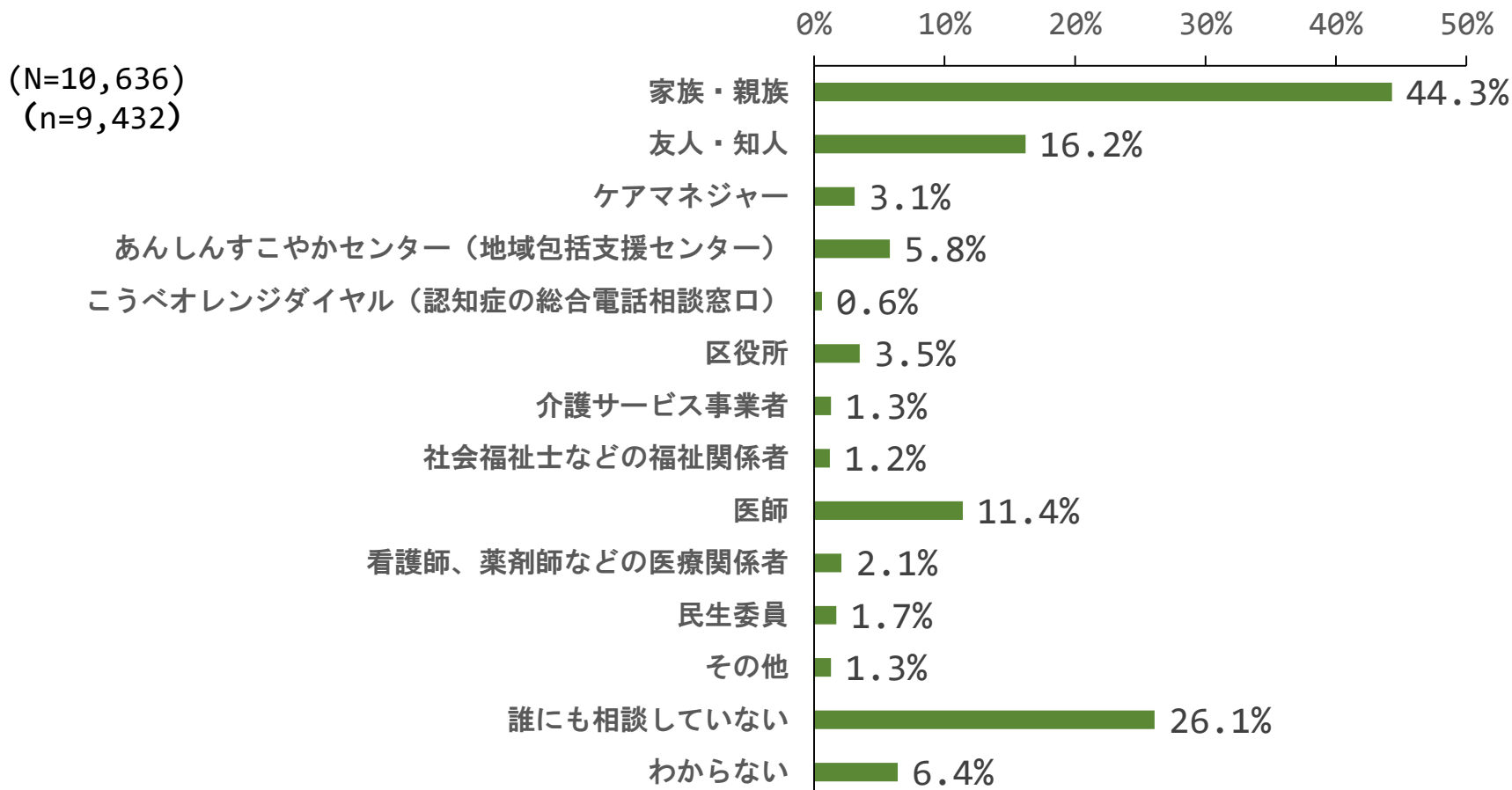
家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいかどうかたずねたところ、「そう思う」「ややそう思う」は合わせて66.2%となっている。一方、「あまり思わない」「全く思わない」は合わせて13.9%となっている。

- 家族が認知症になったら、協力を得るために近所の人や知人などにも知っておいてほしいと思いますか。



認知症に関する心配ごとの相談相手

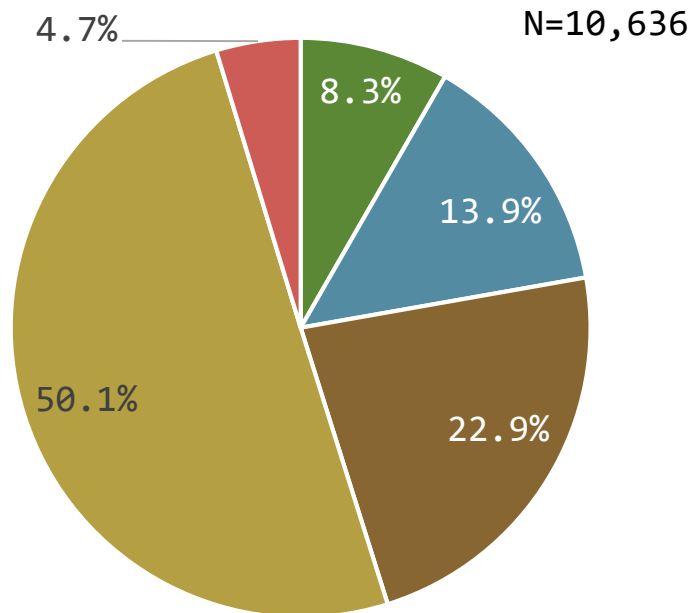
認知症に関する心配ごとを誰に相談しているかたずねたところ、「家族・親族」が44.3%と最も多く、次いで「友人・知人」16.2%、「医師」11.4%が多くなっている。一方、「誰にも相談していない」が26.1%となっている。



認知症神戸モデルの認知度

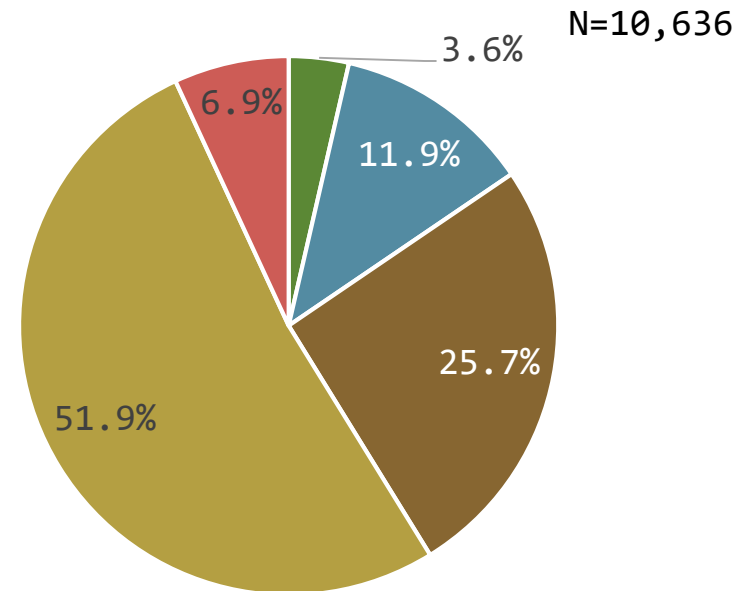
診断助成制度・事故救済制度を知っているかたずねたところ、「知っている」と回答した人がそれぞれ45.1%と41.2%となっており、一方で「知らない」と回答した人がそれぞれ50.1%と51.9%となっている。

診断助成制度の認知度



- よく知っている
- だいたい知っている
- 聞いたことはあるが、内容はわからない
- 知らない
- 無回答

事故救済制度の認知度



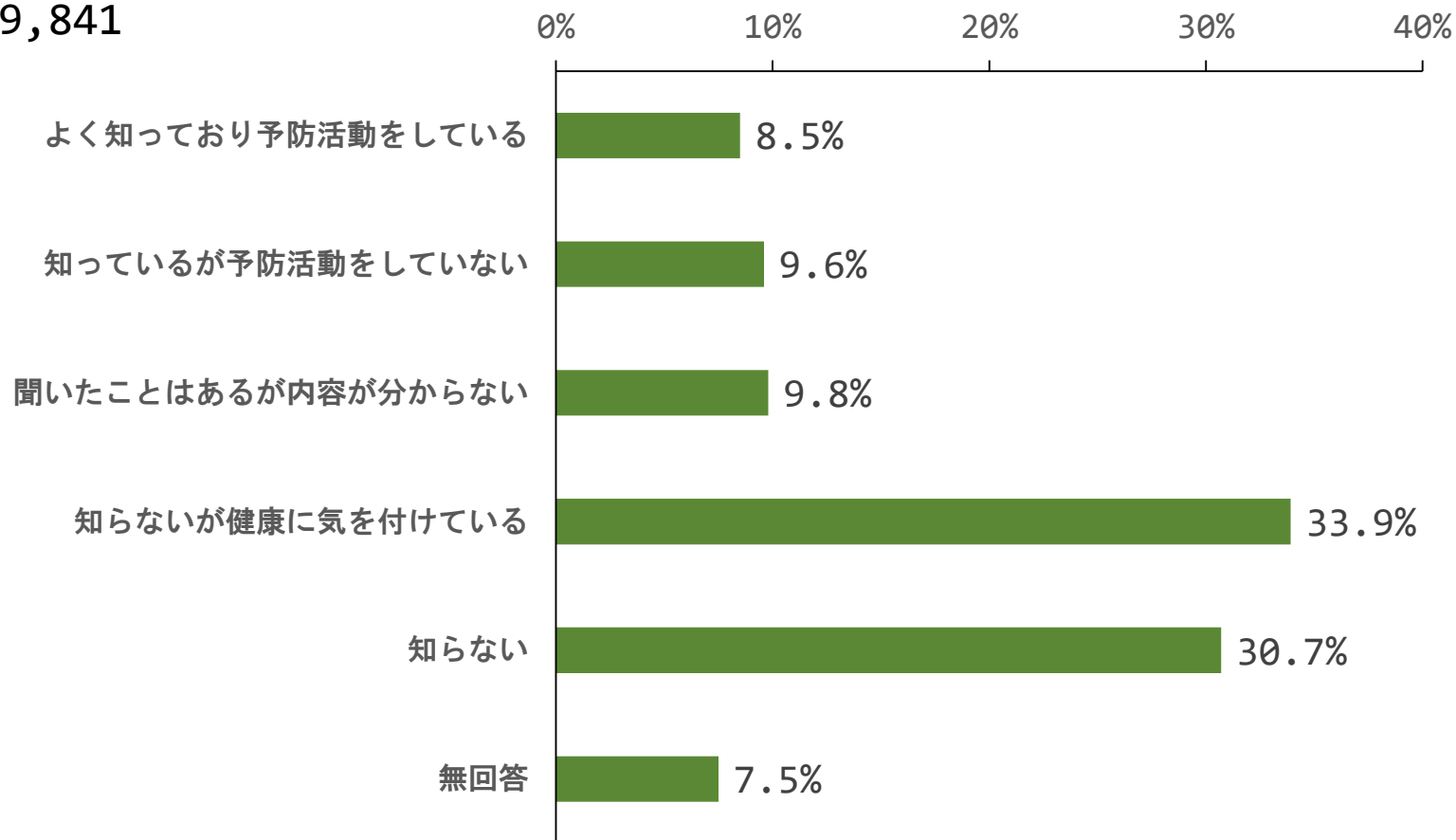
- よく知っている
- だいたい知っている
- 聞いたことはあるが、内容はわからない
- 知らない
- 無回答

フレイルの認知度・健康への意識

「フレイル」という言葉を知っている方が27.9%、一方で知らない方が64.6%となっている。ただし、知らない方のうち、33.9%の方が健康に気をつけている。

N=10,636

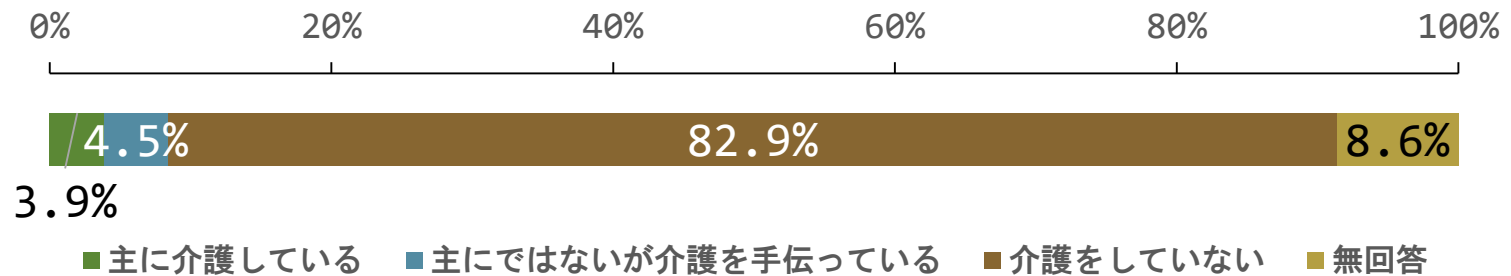
n=9,841



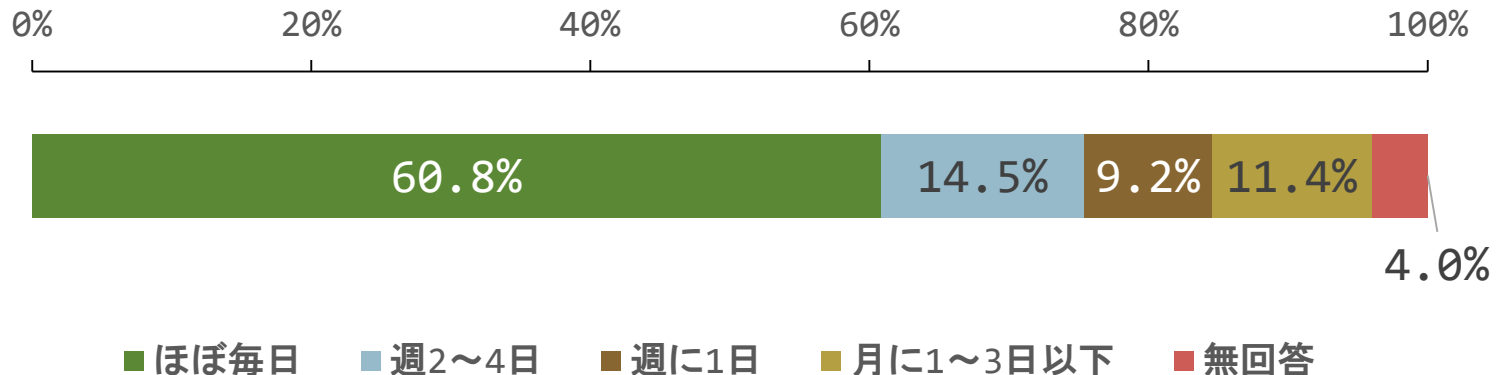
家族の介護

「主に介護をしている」「主にではないが、介護を手伝っている」を合わせた8.4%の方が家族の介護をしていると回答しており、そのなかで平均的な介護頻度を聞いたところ、「ほぼ毎日」と回答した方が60.8%となっている。

- 現在あなたはご家族の介護をしていますか。 (N=10,636)



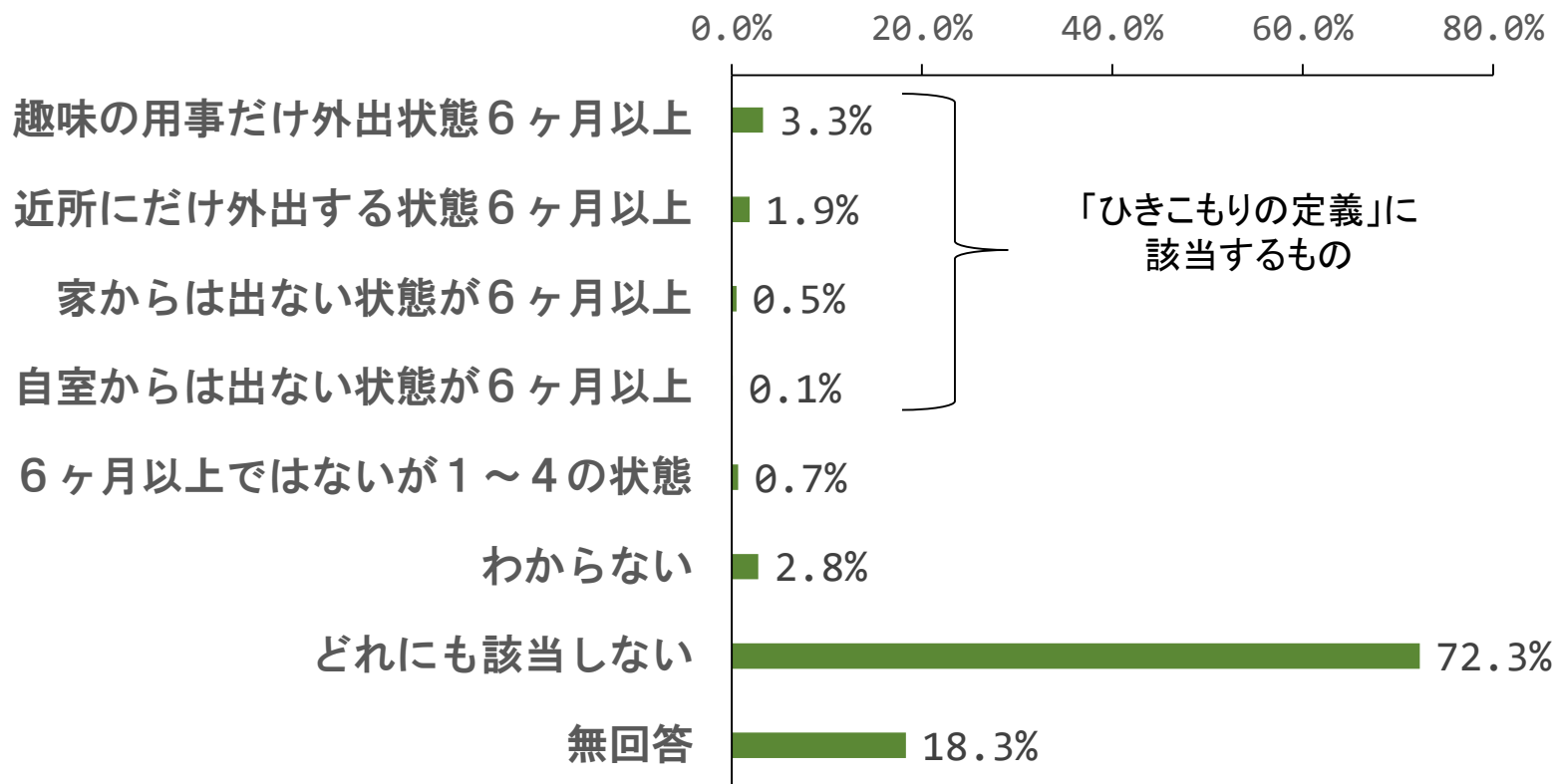
- 平均的な介護頻度はどのくらいですか。 (N=901)



ひきこもりの割合

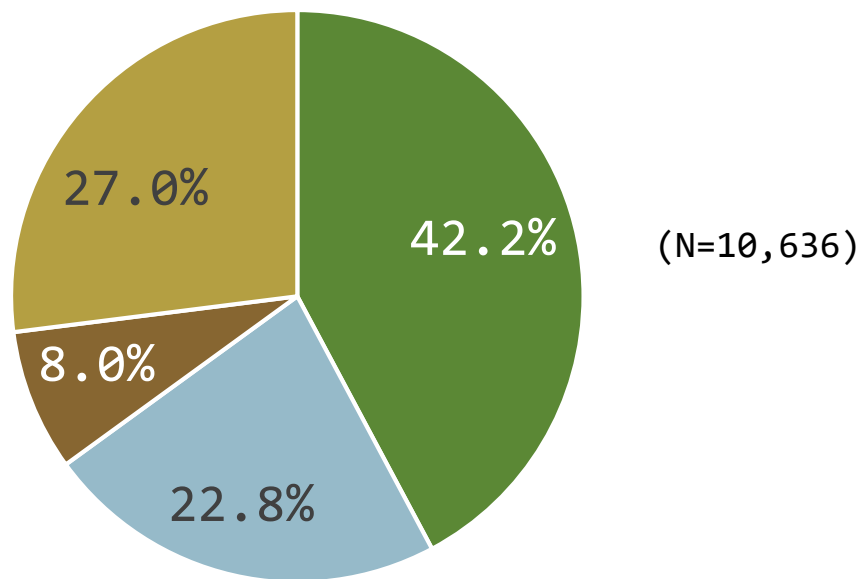
64歳以下の同居する家族がいる方に、その家族がどの状態に該当するかたずねたところ、ひきこもり状態であると回答したのが5.8%となっており、「どれにも該当しない」が72.3%となっている。

(N=3,219)



介護保険料とサービスの考え方

今後の介護保険料について最も近い考えをたずねたところ、「介護保険サービスの内容の見直しやサービスを利用した人の負担を増やすことなどにより、介護保険料を抑制すべき」が42.2%と最も多く、次いで「介護保険サービスの現状を維持する」22.8%、「介護保険サービスをさらに充実させる。それにより、介護保険料がより高くなっても仕方がない。」8%の順となっている。なお、無回答は27%となっている。



- 介護保険サービスの内容の見直しやサービスを利用した人の負担を増やすことなどにより、介護保険料を抑制すべき
- 介護保険サービスの現状を維持する（高齢化が進む分だけ介護保険料は高くなる）
- 介護保険サービスをさらに充実させる。それにより、介護保険料が高くなっても仕方がない
- 無回答